

議案第 21 号

小田原市社会教育委員の一部委嘱替えについて

小田原市社会教育委員の一部委嘱替えについて、議決を求める。

令和 5 年 5 月 31 日提出

小田原市教育委員会

教育長 柳 下 正 祐

小田原市社会教育委員委嘱替え候補者（案）

【候補者】

選出区分	学校教育関係者
氏名	小田中 大直
備考	泉中学校校長
委嘱期間	委嘱された日から令和6年7月31日まで

選出区分	学校教育関係者
氏名	加藤 まゆみ
備考	前羽小学校校長
委嘱期間	委嘱された日から令和6年7月31日まで

選出区分	社会教育関係者
氏名	中澤 純子
備考	小田原市PTA連絡協議会幹事
委嘱期間	委嘱された日から令和6年7月31日まで

選出区分	家庭教育の向上に資する活動を行う者
氏名	岩崎 美一
備考	神奈川県小田原児童相談所所長
委嘱期間	委嘱された日から令和6年7月31日まで

【前任者】

選出区分	学校教育関係者
氏名	中島 正視

選出区分	学校教育関係者
氏名	高橋 大明

選出区分	社会教育関係者
氏名	井上 久美

選出区分	家庭教育の向上に資する活動を行う者
氏名	山岸 直子

小田原市社会教育委員名簿(案)

任期：令和4年8月1日から令和6年7月31日まで

役 職	選出区分	氏 名	備 考
議 長	社会教育関係者	木 ^き 村 ^{むら} 秀 ^ひ 昭 ^{であき}	小田原市自治会総連合理事
副議長	学識経験者	笹 ^さ 井 ^{さい} 宏 ^{ひろ} 益 ^み	玉川大学学術研究所特任教授 文部科学省国立教育政策研究所フェロー
委 員	学校教育関係者	有 ^あ 賀 ^{りが} かおる	放課後子ども教室コーディネーター 豊川地区主任児童委員
〃	家庭教育の向上に 資する活動を行う者	〇岩 ^{いわ} 崎 ^{さき} 美 ^よ 一 ^{しかず}	神奈川県小田原児童相談所所長
〃	学校教育関係者	〇小 ^お 田 ^だ 中 ^{なか} 大 ^{ひろ} 直 ^{なお}	泉中学校校長
〃	学校教育関係者	〇加 ^か 藤 ^{とう} まゆみ	前羽小学校校長
〃	学識経験者	齊 ^{さい} 藤 ^{とう} ゆか	神奈川大学学長補佐 神奈川大学人間科学部教授
〃	社会教育関係者	高 ^た 橋 ^{かはし} 正 ^{まさ} 則 ^{のり}	公益財団法人小田原市体育協会副会長
〃	社会教育関係者	〇中 ^{なか} 澤 ^{ざわ} 純 ^{じゅん} 子 ^こ	小田原市 PTA 連絡協議会幹事
〃	社会教育関係者	永 ^{なが} 森 ^{もり} 俊 ^{とし} 行 ^{ゆき}	小田原市青少年健全育成連絡協議会会長
〃	社会教育関係者	箕 ^み 輪 ^の 真 ^ま 理 ^り	おだわら子ども防災 代表
〃	家庭教育の向上に 資する活動を行う者	山 ^{やま} 本 ^{もと} 加 ^か 世 ^よ	NPO 法人 mama's hug 代表

※委員は五十音順。敬称略。

※〇印が新任委員候補

議案第 22 号

小田原市文化財保護委員会委員の委嘱について

小田原市文化財保護委員会委員の委嘱について、議決を求める。

令和 5 年 5 月 31 日提出

小田原市教育委員会

教育長 柳 下 正 祐

小田原市文化財保護委員会委員候補者名簿（案）

任期：令和5年6月1日から令和7年5月31日まで

氏 名	職 業 等	専 門	新・再
あいざわ まさひこ 相澤 正彦	成城大学文芸学部芸術学科教授	美術（絵画）	再任
かつやま てるお 勝山 輝男	元神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員	自然科学	再任
いわはし きよみ 岩橋 清美	國學院大學文学部史学科教授	歴史（近世史）	再任
おおやつ さなえ 大谷津 早苗	昭和女子大学人間文化学部歴史文化 学科教授	民俗	再任
ひらた だいじ 平田 大二	元神奈川県立生命の星・地球博物館 館長	自然科学	再任
た お まさとし 田尾 誠敏	東海大学文学部歴史学科非常勤講師	歴史（考古）	新任
さしなみ あきこ 差波 亜紀子	日本女子大学文学部史学科教授	歴史（近代史）	新任
ながつか たかし 長塚 孝	（公財）馬事文化財団参与	歴史（中世史）	新任
おざわ あさえ 小沢 朝江	東海大学建築都市学部建築学科教授	建築史	新任
やまもと あつし 山本 篤志	大外郭の会代表	城郭	新任

議案第23号

小田原市図書館協議会委員の一部任命替えについて

小田原市図書館協議会委員の一部任命替えについて、議決を求める。

令和5年5月31日提出

小田原市教育委員会

教育長 柳 下 正 祐

小田原市図書館協議会委員候補者名簿（案）

【候補者】

選出区分	学校教育の関係者
氏名	藤本 明美
備考	小田原市学校図書館協議会 会長（町田小学校長）
任命期間	任命された日から令和6年9月30日まで

選出区分	家庭教育の向上に資する活動を行う者
氏名	植田 裕希江
備考	小田原市PTA連絡協議会（前羽小学校PTA副会長）
任命期間	任命された日から令和6年9月30日まで

【前任者】

選出区分	学校教育の関係者
氏名	加藤 佳代

選出区分	家庭教育の向上に資する活動を行う者
氏名	松本 尚子

第35期 小田原市図書館協議会 委員名簿（案）

任期：令和4年10月1日から令和6年9月30日まで

役職	選出区分	氏名	備考
委員長	学識経験のある者	野口 武悟 <small>のぐち たけ のり</small>	専修大学文学部教授
副委員長	学校教育の関係者	大塚 さとみ <small>おお つか</small>	小田原市学校図書ボランティア 連絡会代表
委員	教育の向上に資する活動を行う者	植田 裕希江 <small>うえ だ ゆきえ</small>	小田原市PTA連絡協議会 前羽小学校PTA副会長
〃	市民公募	勝川 れい子 <small>かつ かわ れいこ</small>	
〃	社会教育の関係者	北河 文子 <small>きた がわ あやこ</small>	小田原の図書館を考える会
〃	市民公募	長谷川 貴幸 <small>はせがわ たか ゆき</small>	
〃	学校教育の関係者	藤本 明美 <small>ふじ もと あけみ</small>	小田原市学校図書館協議会会長 小田原市立町田小学校長
〃	学識経験のある者	馬見塚 昭久 <small>ま みづか あき ひさ</small>	常葉大学保育学部准教授

※委員（候補を含む）は五十音順 敬称略

※○印が新任委員候補

報告第 1 号

事務の臨時代理の報告（令和 5 年度小田原市一般会計補正予算）について
小田原市教育長に対する事務委任等に関する規則（平成 10 年小田原市教育委員会規則第 4 号）第 3 条第 1 項の規定により、別紙のとおり臨時に代理したので、同条第 2 項の規定により、これを報告する。

令和 5 年 5 月 31 日提出

小田原市教育委員会
教育長 柳 下 正 祐

令和5年度小田原市一般会計補正予算 概要

(歳入)

(単位：千円)

科 目	要 求 額	主 な 内 容
(項) 国庫補助金		
(目) 教育費補助金		
(節) 社会教育費補助金	6,148	文化芸術振興費補助金 社会資本整備総合交付金
(項) 寄附金		
(目) 教育費寄附金		
(節) 教育総務費寄附金	100	事務局費寄附金
(節) 中学校費寄附金	227	学校管理費寄附金
(項) 市債		
(目) 教育債		
(節) 教育総務債	2,600	給食調理施設整備事業債
(節) 小学校債	2,400	義務教育施設整備事業債
(節) 社会教育債	2,300	社会教育施設整備事業債
合 計	13,775	

(歳出)

(単位：千円)

科 目	要 求 額	主 な 内 容	財 源 内 訳			
			国県支出金	地方債	その他	一般財源
(項)教育総務費 (目)事務局費 きめ細かな教育 体制の充実	100	<u>支援教育推進事業</u> ・図書購入費 (寄附金充当 1件)			100	
(項)教育総務費 (目)学 校 給 食 共同調理場費 教育環境の整備	2,830	<u>共同調理場施設・設備整 備事業</u> ・共同調理場設備改修事 業費		2,600		230
(項)小学校費 (目)学校管理費 教育環境の整備	2,990	<u>小学校給食調理施設・設 備整備事業</u> ・給食調理場設備改修事 業費 <u>小学校教材等整備・管理 事業</u> ・学校図書購入費 (寄附金充当 2件)		2,400		590
(項)中学校費 (目)学校管理費 教育環境の整備	327	<u>中学校教材等整備・管理 事業</u> ・学校図書購入費 (寄附金充当 2件)			227	100

(項)社会教育費 (目)文化財保護費 文化財の保存・活用	5,766	指定文化財等保存管理事業 ・地域計画策定支援委託料	3,724			2,042
(項)社会教育費 (目)図書館費 歴史まちづくりの推進	4,848	小田原文学館管理運営事業 ・小田原文学館庭園等整備設計事業費	2,424	2,300		124
合計	16,861		6,148	7,300	327	3,086

(継続費補正)

追加

(単位：千円)

事業名	区分	年度	年割額	財源内訳			
				国県支出金	地方債	その他	一般財源
共同調理場設備改修事業	補正額	5	2,830		2,600		230
		6	11,360		10,600		760
		計	14,190		13,200		990
給食調理場設備改修事業	補正額	5	2,590		2,400		190
		6	10,400		9,700		700
		計	12,990		12,100		890
小田原文学館庭園等整備設計事業	補正額	5	4,848	2,424	2,300		124
		6	11,311	5,655	5,500		156
		計	16,159	8,079	7,800		280

変更

(単位：千円)

事業名	区分	年度	年割額	財源内訳			
				国県支出金	地方債	その他	一般財源
学校給食センター整備事業	補正前の額	4	1,275,320	167,513	1,107,500		307
		5					
		6	735,480		689,400		46,080
		計	2,010,800	167,513	1,796,900		46,387
	補正額	4					
		5					
		6	277,966		260,600		17,366
		計	277,966		260,600		17,366
	補正後の額	4	1,275,320	167,513	1,107,500		307
		5					
		6	1,013,446		950,000		63,446
		計	2,288,766	167,513	2,057,500		63,753

(繰越明許費補正)

(単位：千円)

事業名	繰越額	財源内訳			
		国県支出金	地方債	その他	一般財源
中学校給食調理施設・設備整備事業	27,740		20,800		6,940
尊徳記念館管理運営事業	27,676		20,700		6,976

共同調理場・小学校給食調理場設備改修事業費について

1 事業概要

令和4年度3月補正予算で措置し、繰越明許をした豊川学校給食共同調理場及び芦子小学校の空調設備設置工事のうち、給排気設備の改修について、設備の納期が大幅に遅れるため令和5年度中に完了しないことが判明したことから、繰越予算では空調設備新設のみ実施し、給排気設備の改修については、改めて令和5～6年度で継続費を設定し、2か年で実施する。

2 予算額

5,420千円（令和5～6年度継続費設定 継続費総額 27,180千円）

（単位：千円）

	令和5年度	令和6年度	計
豊川学校給食共同調理場	2,830	11,360	14,190
芦子小学校	2,590	10,400	12,990
合計	5,420	21,760	27,180

3 スケジュール

	令和5年度	令和6年度	
空調設備新設工事（令和4年度3月補正）	 夏休み設置		完了
給排気設備改修工事（6月補正）			

指定文化財等保存管理事業（地域計画策定支援）について

1 目 的

文化財の保存・活用に関して本市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定めることで、継続性・一貫性のある文化財の保存・活用を促進するとともに、本市文化財行政の取組の方向性を明示し広く周知することで、民間団体や地域住民の理解・協力を得ることを目的とする。

なお、計画の策定は、文化財行政に係る国庫補助金（文化芸術振興費補助金等）の優先的採択の条件となっており、令和4年（2022年）12月16日時点で、全国96自治体の計画が文化庁の認定を受けている。

2 事業概要

策定期間は3年間とし、1年目は計画策定に係る「懇話会」を開催し、情報収集等を行うとともに、既存の「文化財保護委員会」において計画案を協議する。また、本市文化財に関する調査資料、台帳等の整理、アンケート調査等に係る業務を委託する。

3 財 源

文化芸術振興費補助金（国庫） 3,724千円

小田原文学館管理運営事業について

(小田原文学館庭園等整備設計事業費)

1 目的

「小田原市歴史的風致維持向上計画（第2期）」（令和3年(2021年)3月認定計画期間 令和3～12年度(2030年度)）に基づく事業の1つとして、国登録有形文化財及び歴史的風致形成建造物に指定されている小田原文学館の整備を進め、歴史的風致の維持向上を図る。

2 事業概要

令和4年度(2022年度)に実施した庭園調査の結果に基づき、旧観が判明する箇所は可能な限り復元に努め、建物との調和、美観の向上など修景及び歴史的景観に配慮しつつ、管理機能の強化と安全性を向上させるため、庭園等整備実施設計を行う。

3 予算額

小田原文学館庭園等整備設計事業費

(小田原文学館庭園等整備実施設計業務)

(令和5～6年度継続事業 継続費設定額 16,159千円)

(単位：千円)

令和5年度	令和6年度	継続費総額
4,848	11,311	16,159

4 財源

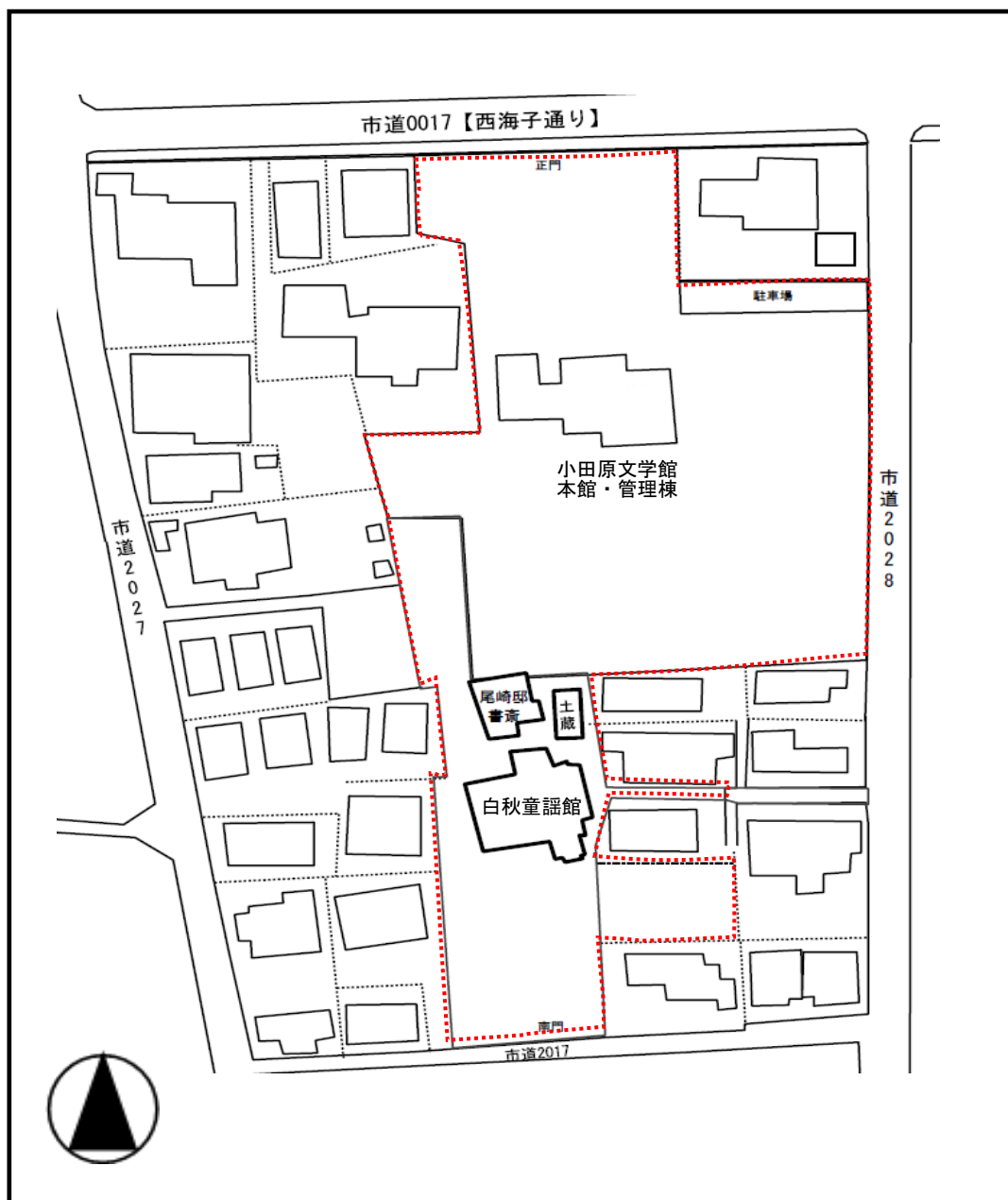
社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国1／2）

5 スケジュール

令和5～6年度 庭園整備に関する実施設計

令和6～8年度 庭園整備工事

6 小田原文学館敷地平面図



学校給食センター整備事業について

1 経緯

プロポーザルにより選定された整備事業者が、令和4年(2022年)3月から設計業務を進めているが、世界的な資材不足、物価高騰等による建設工事費の増加及び特定資材の納期に遅れが生じている。このことから、当初、提案のあった事業費及び工期での実施が困難であると整備事業者から申し入れがあり、市で内容を精査した結果、建設工事等について継続費を変更し、所要の経費を増額するとともに、事業スケジュールの変更を行う。

2 継続費の変更

(単位：千円)

	年度	年割額	財源内訳			
			国庫	地方債	その他	一般財源
補正前 の額	令和4年度	1,275,320	167,513	1,107,500	0	307
	令和5年度					
	令和6年度	735,480	0	689,400	0	46,080
	計	2,010,800	167,513	1,796,900	0	46,387
補正額	令和4年度					
	令和5年度					
	令和6年度	277,966	0	260,600	0	17,366
	計	277,966	0	260,600	0	17,366
補正後 の額	令和4年度	1,275,320	167,513	1,107,500	0	307
	令和5年度					
	令和6年度	1,013,446	0	950,000	0	63,446
	計	2,288,766	167,513	2,057,500	0	63,753

※令和4年度3月補正において、国補正予算と合わせて前倒しで計上、全額を令和5年度に繰越し

3 事業スケジュールの変更

給食提供開始時期：令和6年9月から**令和7年4月**に変更する。

【要因】

- (1) 工事費増額に伴い契約が半月程度遅れる。
- (2) 基礎杭の納期が当初予定の2か月から5か月に延びる。
- (3) 開業準備に夏季休業を活用できないため、1か月長い期間を要する。

	R5年度					R6年度						R7年度	
	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6
当初	●契約		建設工事				開業準備	★	R6.9	給食提供開始			
変更後	●契約			建設工事				開業準備				★	給食提供開始

青少年の体験交流事業等について

1 指導者養成研修事業

青少年健全育成の担い手として継続的に活躍できる青少年指導者の発掘・育成・資質向上を目的とした研修事業

(1) 期日・講座・講師・内容（令和5年度案）

期日	講座	講師	内容
5月20日 (土)	キャンプの基礎編	小清水 哲郎氏	キャンプを行う上でのリスクマネジメントや、野外炊事についての基礎を学ぶ。
6月3日 (土)	プレイパーク編①	佐久間 純恵氏	実際にプレイパーク（冒険遊び場）を開催しながら、子どもの自主性や創造性を育むような子どもとの接し方などを学ぶ。
6月17日 (土)	マス掴み編	小清水 哲郎氏	マスの捕り方や調理方法を教わりながら、川に生息する生き物の素晴らしさ、川に潜む危険について子どもたちに教えられよう、研修を行う。
7月1日 (土)	磯観察編	水井 涼太氏	磯の生物観察をしながら生態系について学び、実際に子どもたちに説明できるように研修を行う。
9月23日 (土)	プレイパーク編②	佐久間 純恵氏	実際にプレイパーク（冒険遊び場）を開催しながら、子どもの自主性や創造性を育むような子どもとの接し方などを学ぶ。
10月29日 (日)	木工研修編	稲葉 恭子氏	木工のまち小田原ならではのワークショップを通して、正しい道具の使い方や多彩な木工を知ること、子どもたちに楽しんでもらえる知識を身に付ける。
未定	秋の登山編	橋谷 晃氏	大人が正しい山の知識や道具の使い方を習得し、子どもたちに山の楽しさや山々に生息する動植物の素晴らしさ、山に潜む危険について教えられよう、実際に登山をしながら研修を行う。

(2) 対象 青少年育成、体験活動に携わる、また関心のある高校生以上の方

(3) 受講料 各プログラム 1,500円（プレイパーク編は無料）

2 青少年交流事業 「チャレンジ アンド トライ」 ※市子ども会連絡協議会の補助事業

各地区子ども会の代表児童（各地区男女1名ずつ、計26人）が集い、地域の子ども会活動などにおいてリーダーとして活躍できるよう、各種プログラムを体験

(1) 期日 令和5年7月8日（土）

(2) 場所 川東タウンセンターマロニエ 3階 マロニエホール

(3) 内容 体験・交流プログラムほか

(4) 参加募集 小学6年生・26人（男13人／女13人） ※各地区の子ども会から選出

3 地域少年リーダー養成講座 「きらめきロビンフード」

子どもたちが、新しい仲間と一緒に自然体験やキャンプスキルを習得する中で、地域で活躍できる“少年リーダー”としての自覚と行動力を身に付けていくことを目的とする1泊2日のキャンプ（宿泊研修）を中心とした全4回の年間講座

(1) 期日・場所・内容

	期 日	場 所	内 容	参加人数
第1回	令和5年9月頃開催	市役所	オリエンテーションほか	30人
第2回	令和5年10月7日（土） ～8日（日）	神奈川県立足柄 ふれあいの村	キャンプ（野外炊事含む） 自然体験ほか	〃
第3回	令和5年11月頃開催	生涯学習センター けやき	記念誌づくりほか	〃
第4回	令和5年12月頃開催	市役所	修了証書授与ほか	〃

(2) 指導者 小田原市青少年育成推進員協議会、ユース・リーダーズ・クラブ、ジュニア・リーダーズ・クラブ

(3) 参加費 4,000円

4 非日常型体験学習事業

長野県飯田市にある、電気と水道だけが残された廃村である大平宿に宿泊し、ここでしか経験することができない自然体験をとおして、普段何気なく使用している身の回りの物の大切さや文明の発達を知る機会とする。

(1) 場所 長野県飯田市 いろりの里「大平宿」

(2) 期日 令和5年7月29日（土）～7月31日（月）（2泊3日）（事前・事後研修有り）
スケジュール（予定）

1日目 市役所集合→移動（バス）→飯田駅→昼食→大平宿入村式→宿の清掃→火おこし体験→夕食炊飯→入浴→就寝
2日目 実行委員会による体験学習プログラム
3日目 起床→朝食→宿の清掃→退村式→移動（バス）→小田原着→解散

※事前研修では、グループビルドのほか、火おこしなど入村生活に必要な知識を習得する。

※事後研修では、体験学習で学んだことから気付いたことや課題を共有する。

(3) 参加者 市内在住・在学の小学校5・6年生 80人
スタッフ、事務局職員 30人

(4) 参加費 15,000円

電子図書館と学習用端末等を活用した読書活動の推進について

1 目的

学校と図書館の連携のもと、学習用端末を活用した電子図書館の利用環境を整え、児童生徒の読書活動を推進する。

2 事業概要

市立小中学校の児童生徒に配付されている学習用端末などから電子図書館にアクセスし、朝読書や休み時間、調べ学習などに電子書籍を活用できる環境を整える。

電子図書館は、インターネットに接続した端末から電子書籍の検索、貸出、返却等ができる。また、音声読み上げ機能もあり、児童生徒の実情に応じて利用することができる。

なお、電子図書館へのアクセスには、利用者IDとパスワードが必要になることから、全児童生徒に配付されている学習用端末と同一の利用者IDとパスワードを活用する。

※教職員のIDとパスワードについても、各小中学校のクラス数に応じて配布する。

3 利用開始予定時期

令和5年（2023年）7月から

導入スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	
校長会等 事業説明		→				
教職員用ID・PW設定		→				
教職員 操作説明会（web）			→			
児童生徒用ID・PW設定			→			
児童生徒 操作説明（担任→児童生徒）			→			
さくら連絡網配信				→		
電子書籍の貸出開始				→		

4 利用方法

児童生徒が「小田原市電子図書館」のサイトにアクセスし、利用者IDとパスワードを入力して電子図書館にログインし、電子書籍の検索、貸出、返却等を行う。

5 貸出冊数と期間

一度に貸し出せる冊数：3冊以内

貸出期間：2週間以内（貸出期間が過ぎると自動的に返却される。）

※学校での利用開始に合わせて、児童生徒向けの読み放題コンテンツを導入する。

6 導入にあたり学校への依頼事項

- ・学習用端末を使った電子図書館の活用（朝読書や休み時間などでの読書活動）
- ・児童生徒へログイン方法とパスワード設定など、基本的な操作の説明
※教職員へ操作説明書を配布するとともにweb説明会を開催する。
- ・児童生徒がパスワードを変更、忘失した際の図書館への連絡
- ・電子黒板等に投影して、同時に多人数で電子書籍を視聴する際の図書館への連絡

新しい学校づくり検討委員会 中間報告等について

1 概要

令和4年(2023年)4月から「新しい学校づくり検討委員会」を設置し、学校を取り巻く現状と課題を踏まえ、子供たちの未来にとって望ましい教育環境の基本的な考え方を示す「新しい学校づくり推進基本方針」の検討・策定作業を開始した。

令和4年度(2023年度)は、計6回の委員会を開催したが、その検討経過と概要を「中間報告」として取りまとめて、公表する。また、保護者、教職員、地域関係者を対象としたアンケートの報告書(概要版)を併せて公表する。

2 中間報告について

- I 「新しい学校づくり推進基本方針」とは(策定の目的とプロセス等)
- II 学校を取り巻く現状と課題(背景)
- III 小田原市が目指す教育の姿を体現する「新しい学校」
- IV 「新しい学校」を描くための論点
- V 「10年後の新しい学校」のイメージ

3 アンケート報告書(概要版)について

(1) 実施概要

対象：市立小学校3・4年生の保護者、市立中学校2年生の保護者
市立小中学校の全教職員、学校運営協議会委員・学校評議員
配付数合計 5,464件 回収数合計 3,110件(回収率 56.9%)

期間：令和4年(2022年)7月～9月

方法：オンライン、紙の調査票

(2) 主な設問

- ・これからの学校教育で重視してほしいこと
- ・1学年あたりの望ましい学級数とその理由
- ・これからの学校施設に期待する機能
- ・現在の学校施設についての評価

4 今後のスケジュール(案)

令和5年(2024年)7月 総合教育会議にて基本方針(素案)について協議
8月 基本方針(素案)を教育委員会定例会にて報告
9月 基本方針(素案)のパブリックコメント実施
10月 検討委員会から教育委員会へ答申
11月 基本方針を教育委員会定例会にて確定・公表

小田原市立小・中学校の教育環境に関するアンケート
報告書(概要版)

令和5年(2023年)5月
小田原市新しい学校づくり検討委員会

調査の実施概要

【調査の概要】

○ 調査対象

- 保護者 : 市立小学校3・4年生 市立中学校2年生の保護者
- 教職員 : 市立小中学校の教職員
- 地域関係者: 学校運営協議会委員・学校評議員

○ 調査期間

- 保護者・教職員: 令和4年(2022年)7月15日(月)～8月22日(月)
- 地域関係者 : 令和4年(2022年)8月31日(水)～9月22日(木)

○ 調査方法

- 保護者・教職員: オンライン調査(希望者は紙の調査票により回答)
- 地域関係者 : オンライン調査・紙の調査票の選択制

○ 配布・回収

	配布数	回収数			回収率
		郵送	オンライン	計	
保護者	4,237	-	2,239	2,239	52.8%
教職員	916	7	645	652	71.2%
地域関係者	311	133	86	219	70.4%

※ 自由記述の設問については、回答を「テキストマイニング」、「共起ネットワーク」という手法を用いて分析しています。

- ・テキストマイニング: 文章を単語や助詞などの文節で区切り、単語の出現頻度や重要度(調査対象の文章のみ出現頻度が高い場合、重要度が高くなる)などを抽出・分析する手法。

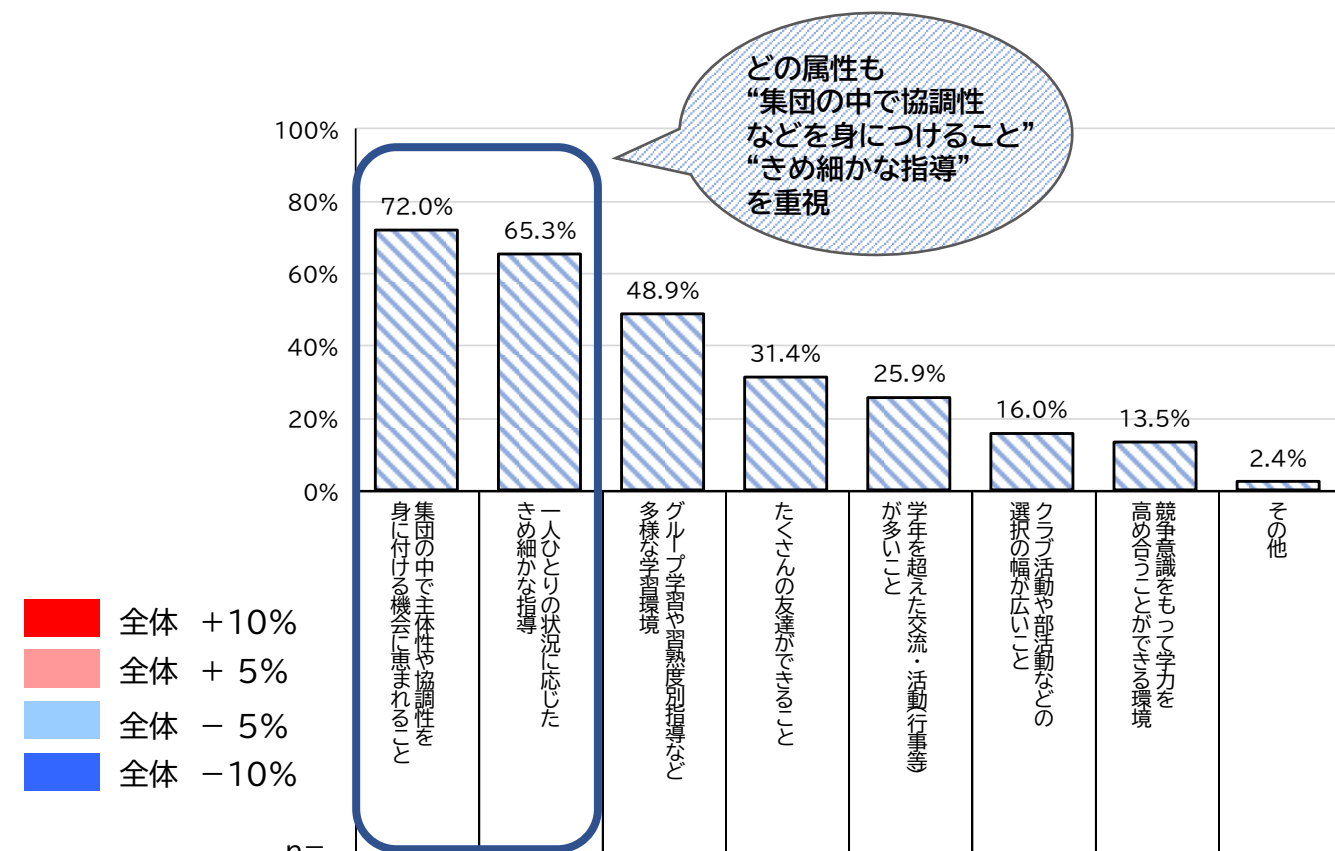
赤: 動詞 例: 取り組める、知り合える
青: 名詞 例: 教育、クラス
緑: 形容詞 例: 通いやすい、深まりやすい

※使用サイト: User Local AIテキストマイニング

- ・共起ネットワーク : 単語の関係性を可視化する方法で、出現頻度の高い表現や文全体の趣旨の把握に有効な手法。

※使用ソフト: KH Coder 3

○これからの学校教育で重視してほしいこと ※3つまで選択



		n=	72.0%	65.3%	48.9%	31.4%	25.9%	16.0%	13.5%	2.4%
全体		3,097	72.0%	65.3%	48.9%	31.4%	25.9%	16.0%	13.5%	2.4%
保護者	小学校	1,574	67.3%	59.1%	47.1%	36.3%	29.5%	17.4%	13.7%	2.0%
	中学校	652	64.6%	68.1%	45.1%	29.8%	17.5%	24.1%	21.3%	2.9%
教職員	小学校	410	87.3%	83.2%	57.3%	22.4%	24.6%	3.2%	2.7%	4.1%
	中学校	242	86.4%	74.4%	57.9%	17.8%	18.2%	10.3%	9.5%	1.7%
地域	小学校	161	83.9%	55.9%	48.4%	36.6%	37.9%	6.8%	14.3%	1.2%
	中学校	58	84.5%	62.1%	41.4%	22.4%	29.3%	25.9%	10.3%	0.0%

保護者と教職員で重視する度合いが異なる

- 保護者は“たくさんの友達ができる”“部活動”などを重視している。
- 教職員は“協調性”や“きめ細かな指導”を重視している。
- 地域は“学年を超えた交流”などを重視している。

<考察>

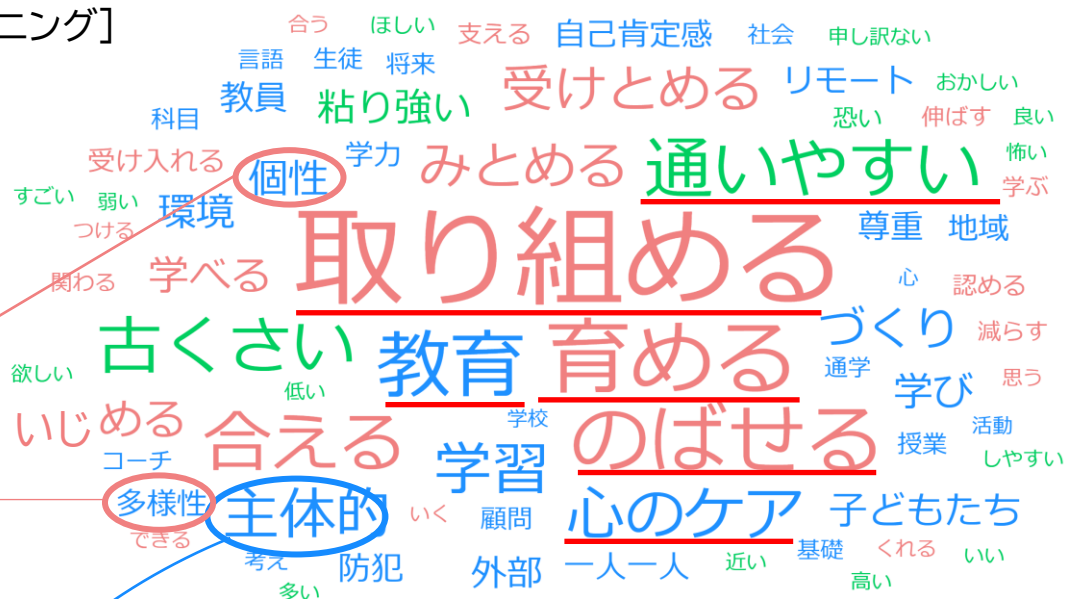
- 全体では、「集団の中で主体性や協調性を身に付ける機会に恵まれること」、「一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導」の順で高い割合。
- 教職員は、全体と比較して「たくさんの友達ができること」、「クラブ活動や部活動などの選択の幅が広いこと」、「競争意識を持って学力を高め合うことができる環境」の割合が低い、中学校の保護者は全体と比較して、「クラブ活動や部活動などの選択の幅が広いこと」、「競争意識を持って学力を高め合うことができる環境」の割合が高くなっている。
- 地域は、「学年を超えた交流・活動(行事等)が多いこと」の割合が高い。これは保護者、教職員でも小学校では重視している割合が高くなっている。

○これからの学校教育で重視してほしいこと・自由意見(80件)

<主な意見>

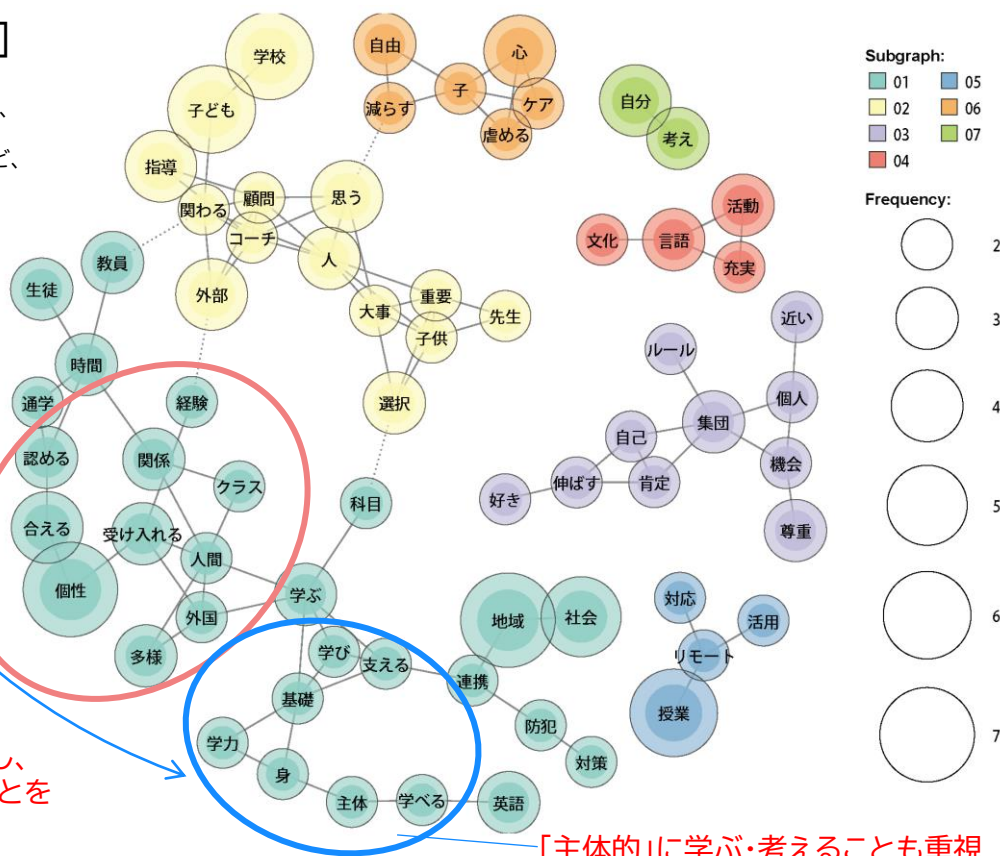
- 誰もが安心して学習に**取り組める**こと。粘り強く**取り組める**環境づくり。
- **個性**を認め合え、長所や好きな事を**伸ばせる**こと。自由に**個性をのばせる**。
- 集団に馴染ませる訓練ではなく、子ども達が自己肯定感を**育める**ような環境。
- **通いやすい**雰囲気。
- いじめられた子の**心のケア**はもちろん、いじめている側の**心のケア**。
- **主体的**に考える意欲や行動力を身につけること。
- **個性を受け入れる**、画一的な価値観で評価することのない**教育**。
- 自分の意見をはっきり言える、また**自己肯定感を伸ばす教育**。
- 一方的な授業ではなく自分の考えを持って発言でき、**認め合える教育**。

[テキストマイニング]



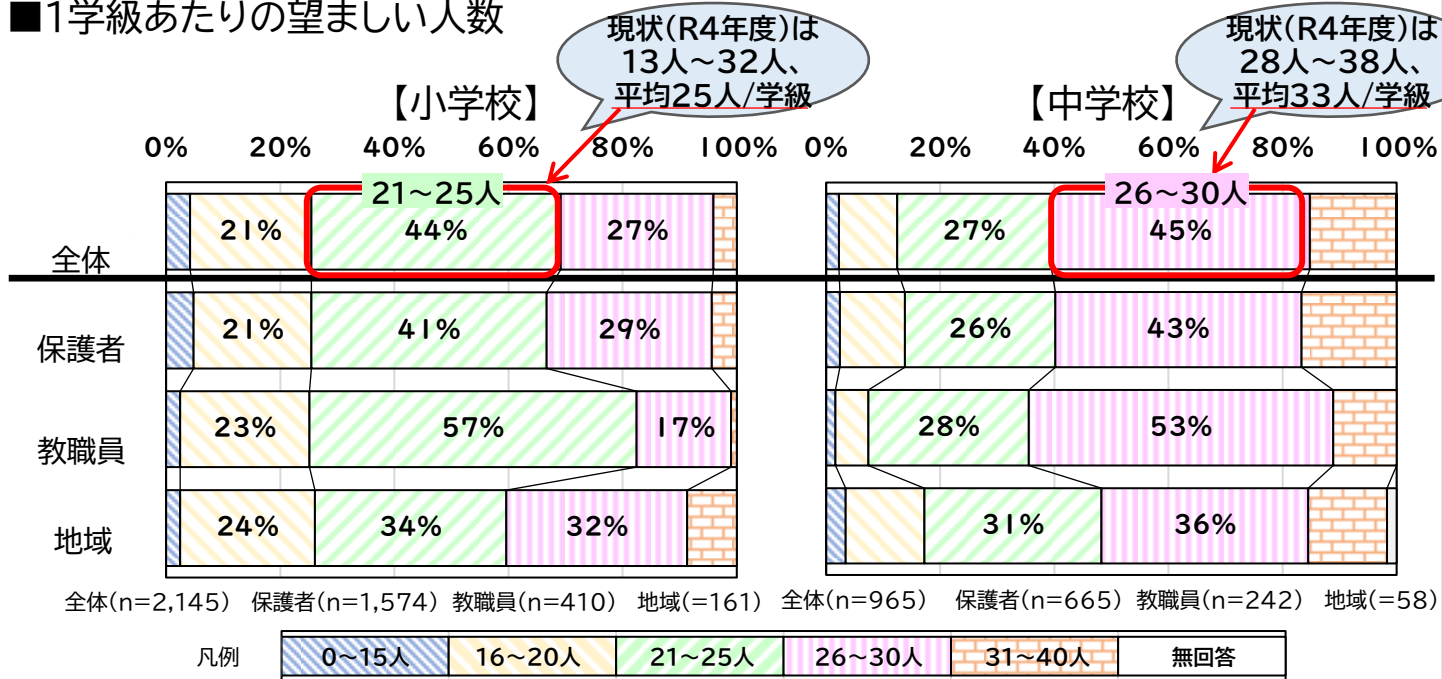
[共起ネットワーク]

Subgraph:関連性の強いワードごとに自動で分類され、色分けされたもの。
Frequency:円が大きいほど、ワード登場回数が多いことを示している。

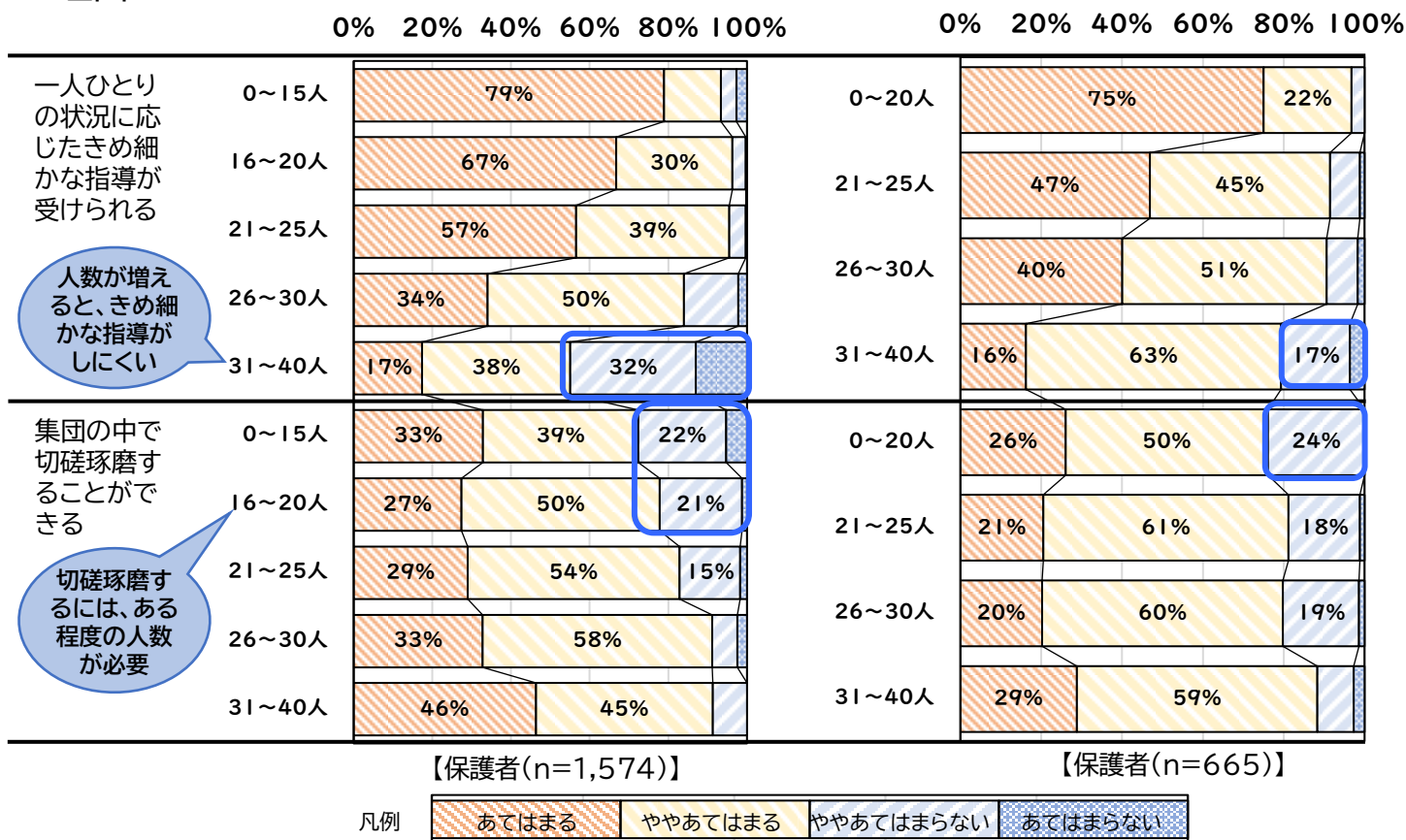


○1学級あたりの望ましい人数とその理由

■1学級あたりの望ましい人数



■理由



<考察>

- 全体として、小学校は「21~25人」、中学校は「26~30人」が多い傾向。
- 主な理由として、「一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導が受けられる」を選択した人は、少人数学級が望ましいと考える傾向が高く、「集団の中で切磋琢磨することができる」を選択した人は、26人以上の学級を望ましいと回答した割合が90%を超えている。

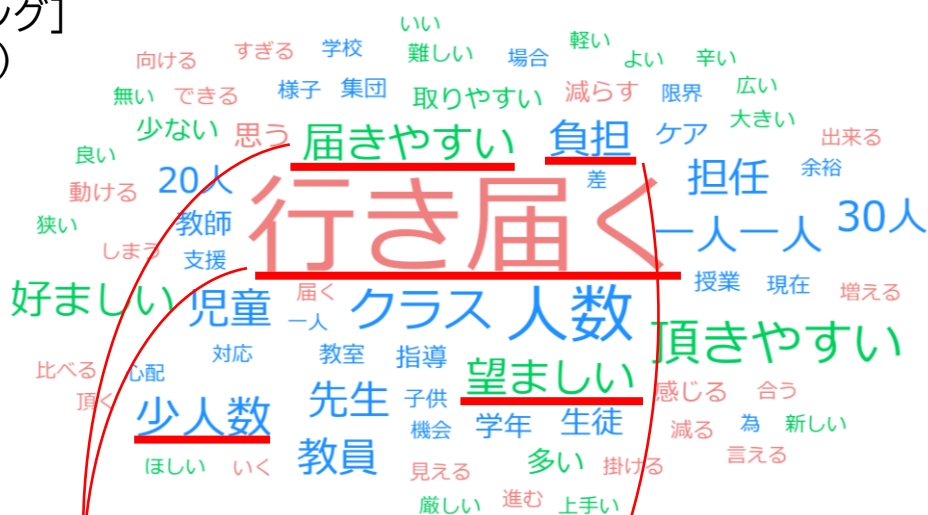
○1学級あたりの望ましい人数とその理由・自由意見(152件)

<主な意見>[保護者]

- 一人の**担任の目が行き届く最大が30人だ**と思うから。教室スペース的にも30人以上は多く感じるから。
- 1クラスの生徒の数よりも、**先生の数を目が行き届く人数**にしていきたいです。
- 現状のクラス人数では**先生方の負担が大きい** 小田原市内の小学校でクラスの人数に差があるのは不公平。
- 集団の中で一人ひとりが今よりは埋没しないで済むと考えるから。適度な人数の集団であることは大切であると思うので、あまりに**少人数なクラスではない方が良い**とも思うから。
- **少人数だと先生の負担は減る**と思うが、**子供たちの負担が増える**のかも。(例えば掃除などの当番)
- **先生の負担が、軽くなれば**、未来を作る子供に影響を与え、未来の世界が必ず良くなると思います。
- **教員の目が届きやすい**のではないかと

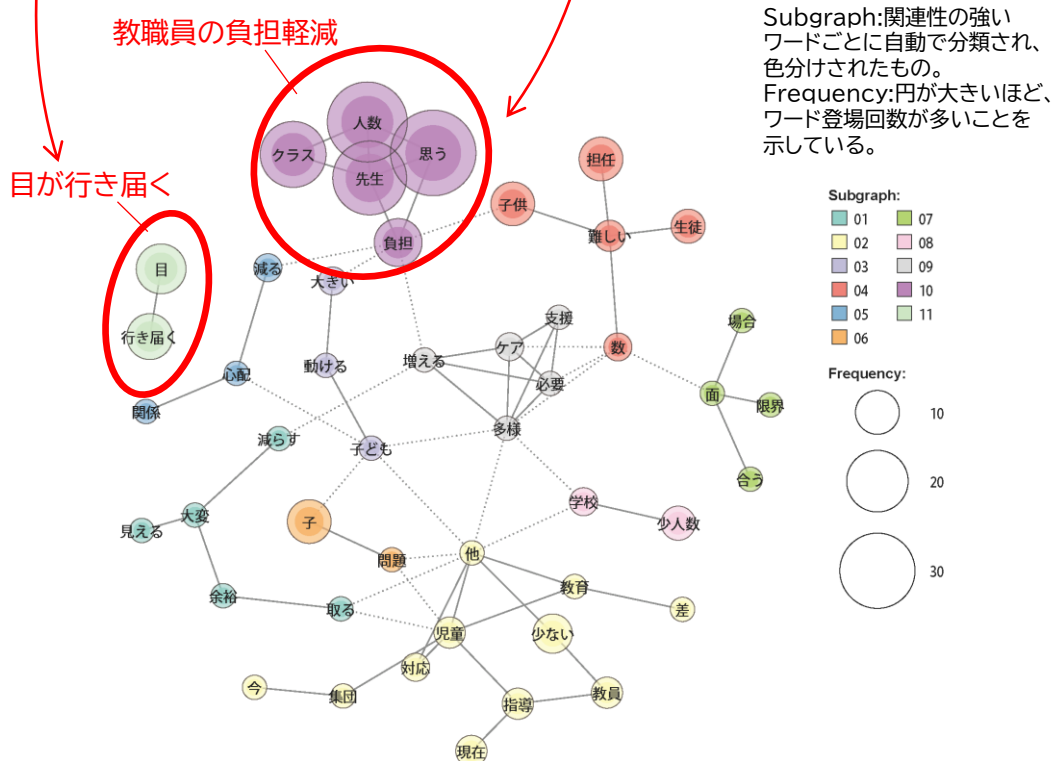
[テキストマイニング]

保護者(小学校)



[共起ネットワーク]

保護者(小学校)



保護者は、1学級あたりの人数が多すぎると教職員の負担が増えるため「教職員の負担軽減」と「教職員の目が行き届く」規模の人数が望ましいと考えている。

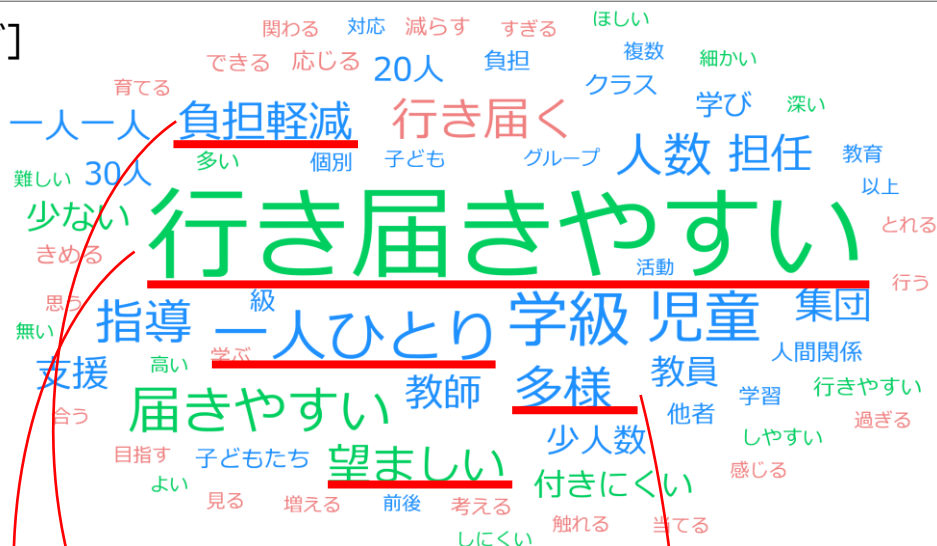
○1学級あたりの望ましい人数とその理由・自由意見(152件)

<主な意見>[教職員]

- 30人以下であれば、児童一人ひとりに目が行き届きやすいと考える。
- 多様な体験と一人ひとりに目が行き届くことのバランスのとれた人数がこの選択肢の範囲だと思う。
- 一人ひとりが自分や他者の存在を認めあえることで、安心して学校生活を送ることができるから。
- 少人数は、指導が行き届きやすいという利点があるが、多様な考えに触れることが難しい場合もある。多すぎず、少なすぎず、適度な人数の学級集団が良いのでは。
- 担任が行う学級での業務の負担軽減になる。保護者対応がよりきめ細やかにできるようになる。
- 1学級の人数は多すぎても少なすぎても難しい。世界的な平均値で考えても20人前後が望ましいと考える。

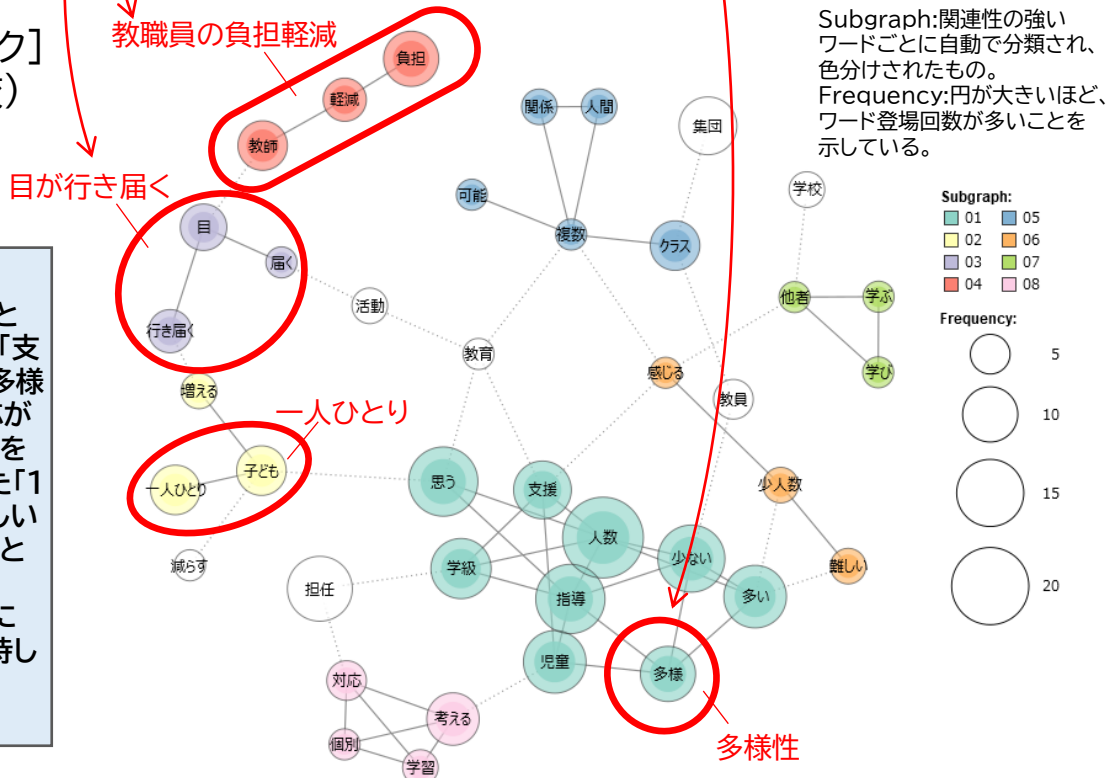
[テキストマイニング]

教職員(小学校)



[共起ネットワーク]

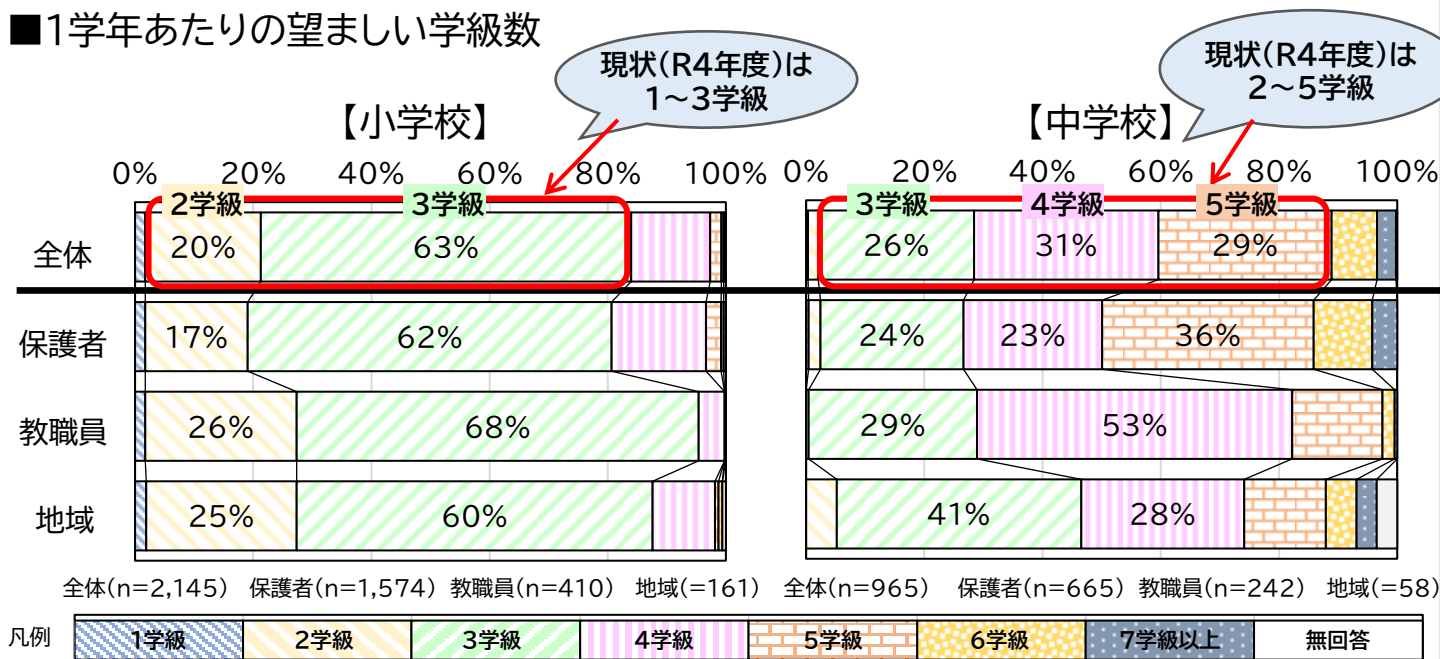
教職員(小学校)



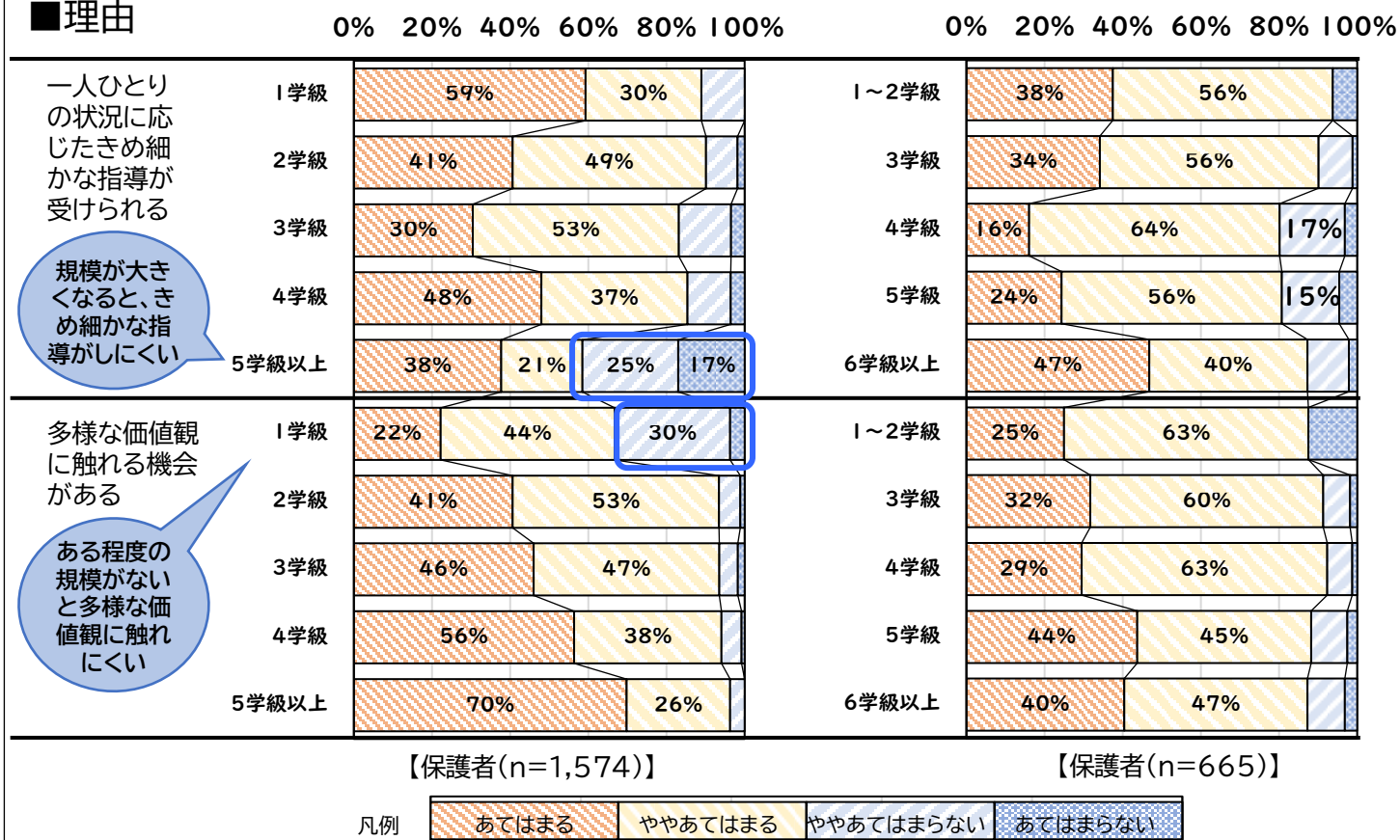
教職員は、「一人ひとり」にあった指導や「支援を要する児童」「多様な児童」などの対応が必要であり、これらを行うために見合った「1学級あたりの望ましい人数」を設定することで「目が行き届き」、「教員の負担軽減」につながることを期待している。

○1学年あたりの望ましい学級数とその理由

■1学年あたりの望ましい学級数



■理由

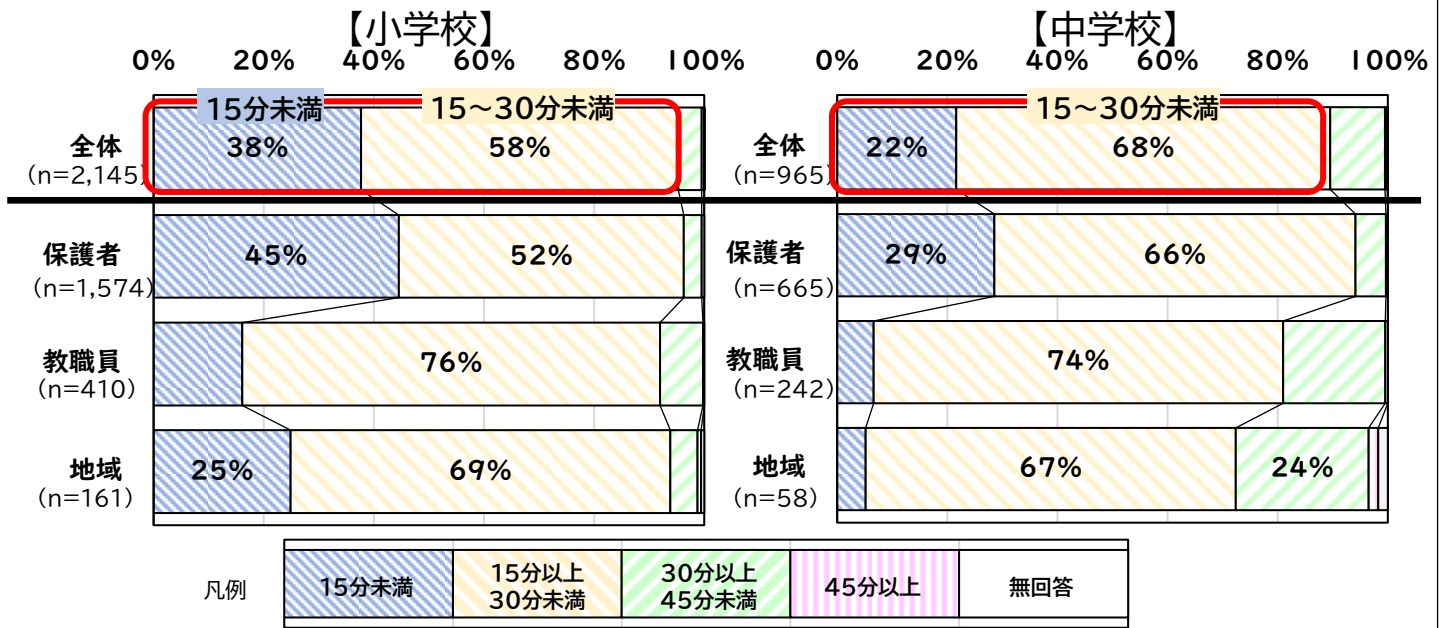


<考察>

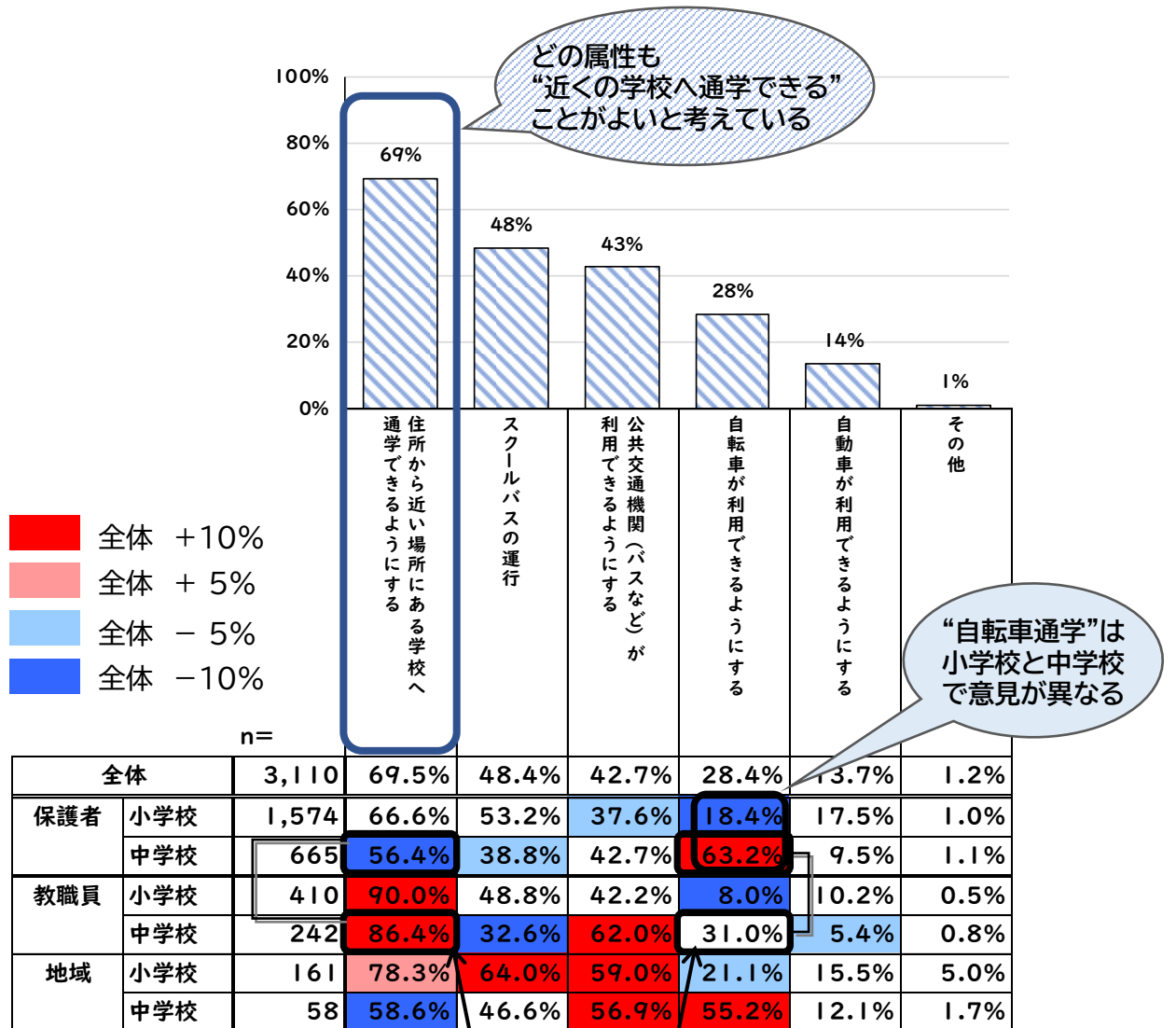
- 全体として、小学校は「3学級」、中学校は「3~5学級」が多い傾向。
- 主な理由として、「一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導が受けられる」では望ましい学級数5学級以上だと、あてはまらない傾向が高く、「多様な価値観に触れる機会がある」は望ましい学級数が多くなるにつれてあてはまる傾向が高い。

○望ましい通学時間の許容範囲と必要な配慮

■ 通学時間(片道)の許容範囲

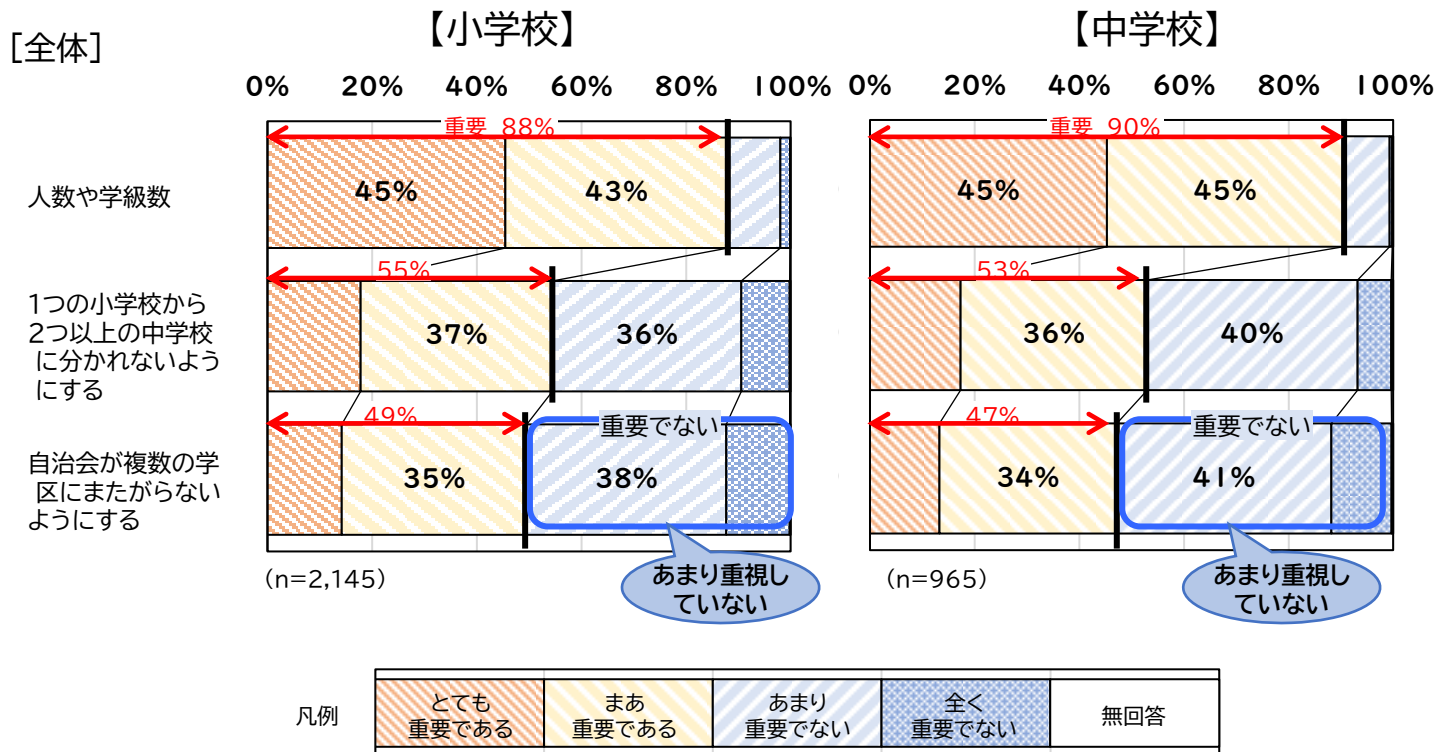


■ 徒歩で通学することが難しい場合に必要な配慮 ※3つまで選択

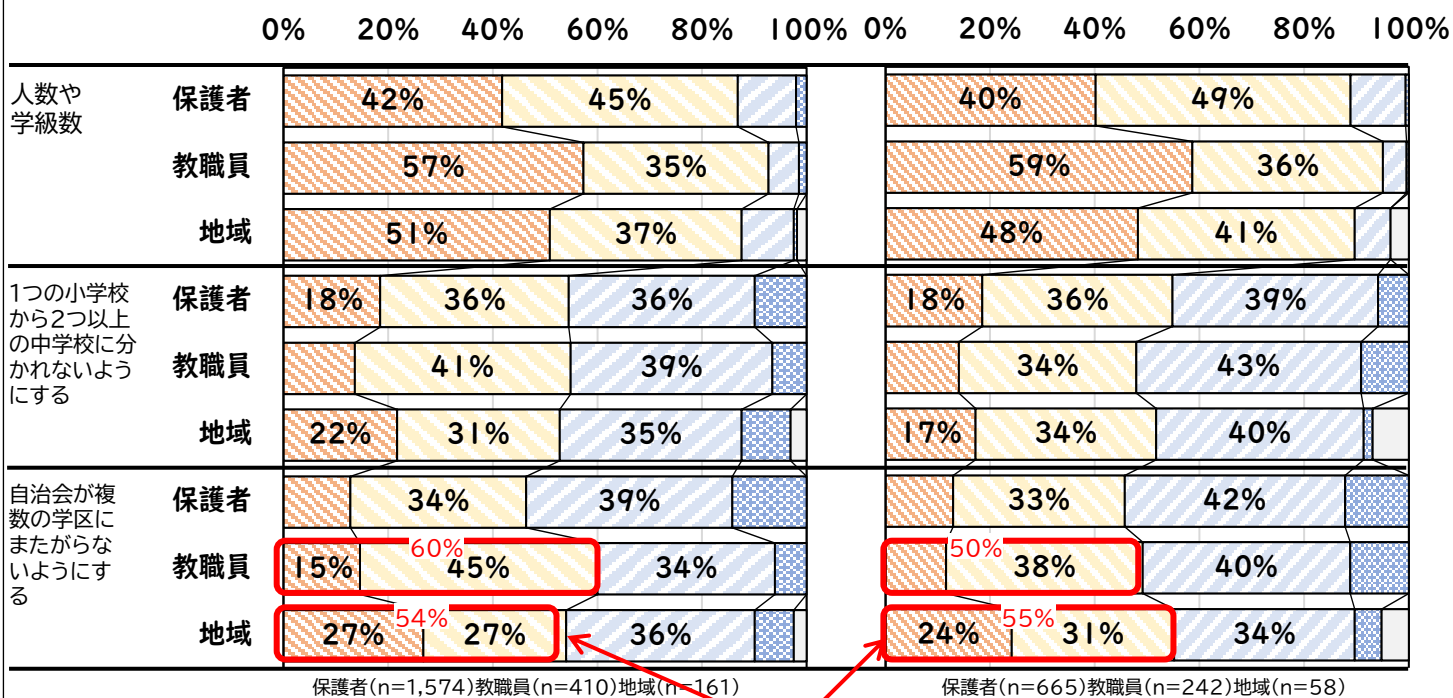


“近い学校”“自転車通学”は保護者と教職員で意見が異なる

○学区の見直しをする場合に重要と考える事項



[属性別]



“自治会と学区”の関係については、教職員と地域は重視している傾向にある

<考察>

- 全体として、学区の見直しにおいて「人数や学級数」が重要と考える割合が高い。
- 「1つの小学校から2つ以上の中学校に分かれないようにする」では、「重要である」の回答が約50%であり、学区の見直しをする場合にあまり重視されていない。
- 「自治会が複数の学区にまたがらないようにする」についても、小学校、中学校どちらとも全体において、「重要ではない」の回答が「重要である」より高くなっている。

○学区の見直しをする場合に重要と考える事項・自由意見(82件)

<主な意見> [保護者、教職員、地域]

- 少人数の学校と大規模校では手厚さが違い、様々な点で差があり不公平感を感じます。市内で不公平感を減らした方が良いと思います。
- 人数や学級数が重要な理由は、多すぎないようにしたいと考えるからです。
- 児童数の減少により学区の再編や学校の統廃合が検討されるのはある程度は理解できる。
- 現在の学区で指定されている中学校よりも近い中学校があるのに、遠い方へ通わなければならないことに疑問があります。自宅からの距離に応じて近い学校を選べるようにしていただきたいです。
- 猛暑や、交通事故、不審者などの心配があるなか、長くても20分を超えるような家庭からの登下校には十分な配慮が必要だと感じます。スクールバスの導入が必要な学校もあると感じます。
- 子ども達の学びの場としての本質は、学びやすさ以上に学びの質を大切にすることが重要だと思います。
- 自治会が複数の学区にまたいでいると、人数が少ない学区の子は後で自治会に参加しにくい。
- 地域の繋がりががあるので、小学校区を分断するような学区再編は無しにして欲しい。
- 現在の学区は、かなり前の自治会のエリアがベースになっており、現在の人口分布とは、アンバランスである。
- 学区内で、2つの自治会連合会が混合している為、地域行事が住所で分断され、同じ学校でありながら、児童の参加が分断されてしまっている。他学校の様に同一参加が望ましいと思います。

[テキストマイニング]



○これからの学校施設に期待する機能

[保護者・教職員・地域]

【小学校】

【中学校】

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

安全・安心な学校

92%

90%

児童・生徒が快適に
学習できる環境

88%

86%

教職員が快適に働ける環境

79%

19%

74%

24%

バリアフリー・ユニバーサルデザインの
推進

54%

39%

54%

39%

環境への配慮

52%

42%

53%

42%

地域の方が使えるスペースの
充実

25%

43%

25%

21%

43%

30%

避難所機能の強化

59%

35%

56%

36%

子育て支援機能との複合化

42%

44%

33%

47%

凡例

あてはまる

ややあてはまる

ややあてはまらない

あてはまらない

具体的には

具体的には

○これからの学校施設に必要と思うもの

[教職員]

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

普通教室の充実

54.6%

普通教室の充実

60.7%

支援を要する児童生徒が快適に
学習できるスペース

50.2%

特別教室の充実

43.0%

少人数で学習等できるスペース

28.8%

職員が快適に執務・生活できるスペース

32.2%

特別教室の充実

23.4%

バリアフリー・ユニバーサルデザインの充実

27.7%

職員が快適に執務・生活できるスペース

23.4%

支援を要する児童生徒が快適に
学習できるスペース

27.3%

バリアフリー・ユニバーサルデザインの充実

22.9%

少人数で学習等できるスペース

17.8%

多人数で学習等できるスペース

19.5%

防犯対策による安全・安心面の配慮

16.9%

防犯対策による安全・安心面の配慮

19.0%

トイレ空間の充実

14.9%

トイレ空間の充実

15.1%

多人数で学習等できるスペース

14.0%

図書やパソコンがあり、
調べ学習等できるスペース

10.2%

図書やパソコンがあり、
調べ学習等できるスペース

14.0%

災害時に必要な設備の充実

9.0%

災害時に必要な設備の充実

12.8%

休憩コーナーなど快適に過ごせる施設

6.3%

休憩コーナーなど快適に過ごせる施設

5.0%

水泳授業ができる室内プールの整備

3.9%

その他(自由記述)

3.3%

食育の充実に資する
給食調理室等の整備

2.9%

地域の方が子供達と交流できるスペース

2.9%

地域の方が子供達と交流できるスペース

2.7%

食育の充実に資する
給食調理室等の整備

1.2%

その他(自由記述)

2.0%

水泳授業ができる室内プールの整備

0.0%

<考察>

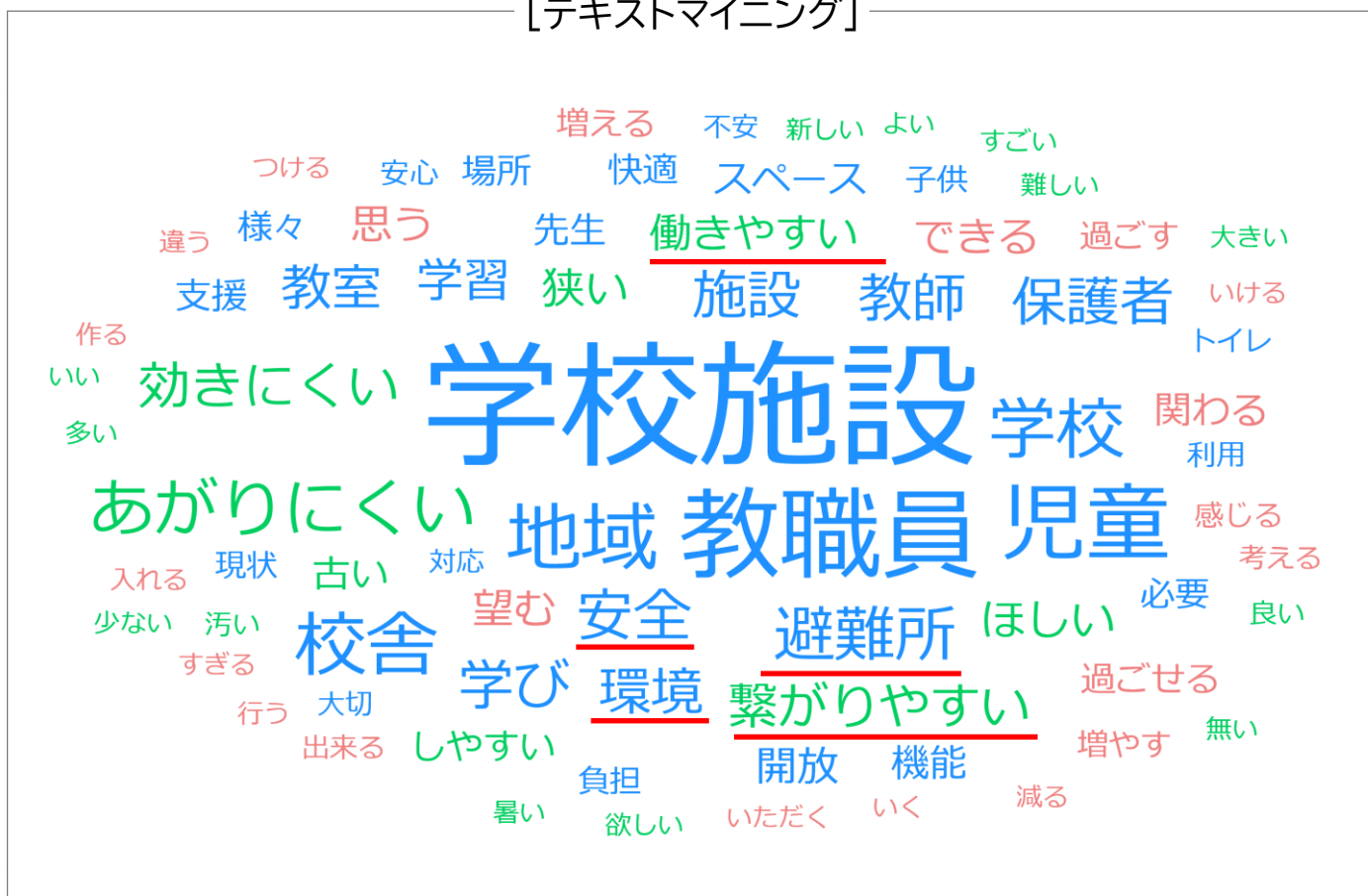
- これからの学校施設に期待する機能としては、「安全・安心な学校」、「児童・生徒が快適に学習できる環境」が共に100%近くを占めている。
- 「児童・生徒が快適に学習できる環境」について具体的なものとして、教職員は、「これからの学校施設に必要と思うもの」において、「普通教室の充実」、「支援を要する児童生徒が快適に学習できるスペース」、「少人数で学習等できるスペース」、「特別教室の充実」を必要と考えていることがわかる。

○これからの学校施設に期待する機能・自由意見(99件)

<主な意見> [保護者、教職員、地域]

- どの地区も学校の老朽化が進んでいるので、特定の場所に偏らず、災害等の避難所になる場所が大抵学校なので建て直しも検討できると良い。
- 学校に警備員や管理人がいるわけではないので、理想をいえば、避難所や地域の方が使うスペースと学校で使うスペースとが重複せずに別々の場所であって欲しい。
- 先生方が働きやすい環境が、子供の情緒に1番良いと思う。地域の方が入りやすいと、学校の安全や安心に繋がると思う。
- 児童や職員が快適に過ごすことができる環境は災害時避難してきた人も快適に過ごすことができると思う。体育館など避難した際、夏は暑く冬は寒い。とても避難できる場所ではないと思う。
- 先生方と生徒達が長い時間過ごす場所なので先生方の意見を沢山取り入れて、意欲的に学べるスタイルの空間の学校になって欲しい。勉強面では、Wi-Fi環境や図書館の充実、放課後友達と勉強ができるスペースが利用出来るなど、興味を広げたり、深める作業がしやすい環境をつくる。
- 地域の方がいるからこそ、子どもの安全が守られてると思います。地域の方が、学校に来ること、使用できることで関心を持ち、子供たちのことも気にかけてもらえてるのだと思います。
- 安全性は保ちつつ地域に開かれた学校を作って欲しい。学校の中に介護のデイサービス、子育て支援センターがあるなど。同じ送迎バスを利用できるなど。

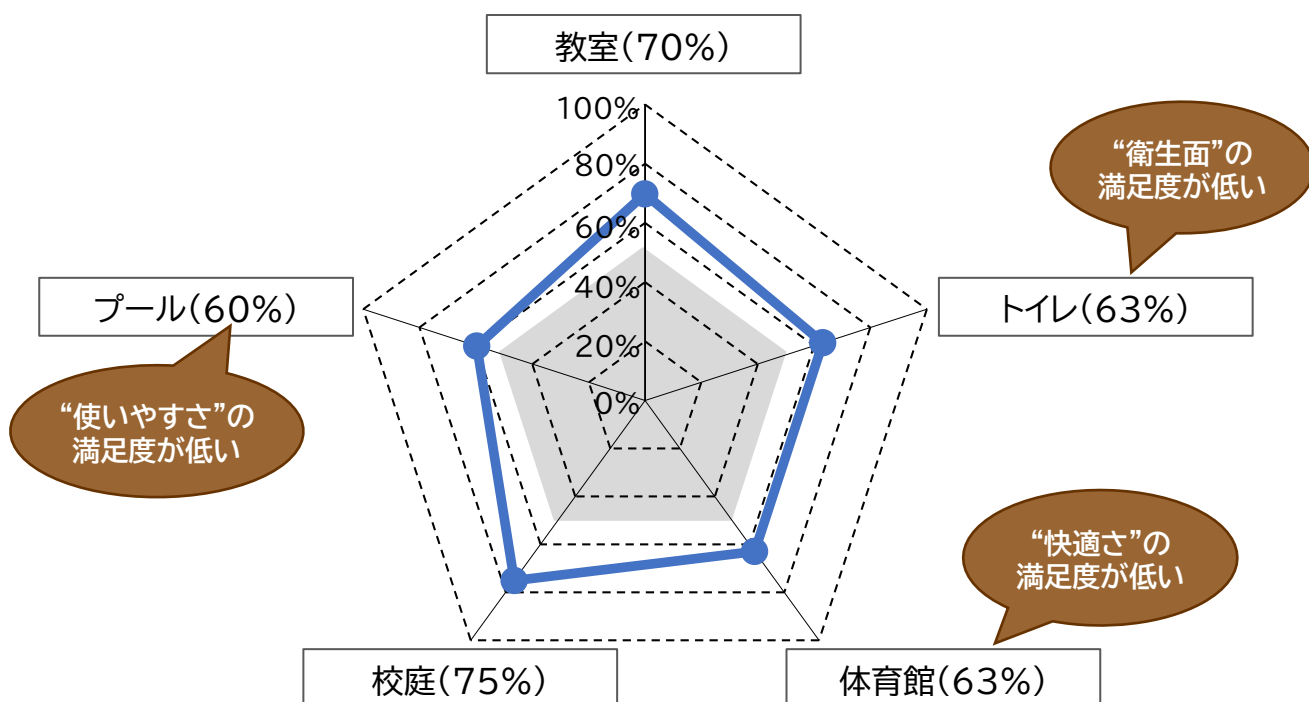
[テキストマイニング]



○現在の学校施設についての評価

■諸室別の満足度【小学校・中学校合計】／【保護者・教職員・地域合計】

※数字:満足+やや満足を合わせた値



■学校別・諸室別の満足度ランキング

※数字:満足+やや満足を合わせた値

小学校(n=1,574)

No	小学校:教室	No	小学校:トイレ	No	小学校:体育館	No	小学校:校庭	No	小学校:プール
1	快適さ 77%	1	安全 70%	1	広さ 83%	1	広さ 84%	1	広さ 74%
2	広さ 76%	1	広さ 70%	2	安全 77%	2	安全 77%	2	安全 56%
3	安全 72%	3	快適さ 58%	3	使いやすさ 70%	3	使いやすさ 73%	3	使いやすさ 52%
3	使いやすさ 72%	4	衛生面 46%	4	快適さ 38%				

“衛生面”が低い

“快適さ”が低い

中学校(n=665)

No	中学校:教室	No	中学校:トイレ	No	中学校:体育館	No	中学校:校庭	No	中学校:プール
1	快適さ 65%	1	安全 68%	1	広さ 66%	1	広さ 72%	1	広さ 68%
2	使いやすさ 59%	2	広さ 67%	2	安全 63%	2	安全 68%	2	安全 53%
2	広さ 59%	3	快適さ 58%	3	使いやすさ 56%	3	使いやすさ 65%	3	使いやすさ 48%
4	安全 57%	4	衛生面 43%	4	快適さ 28%				

“衛生面”が低い

“快適さ”が低い

“使いやすさ”が低い

<考察>

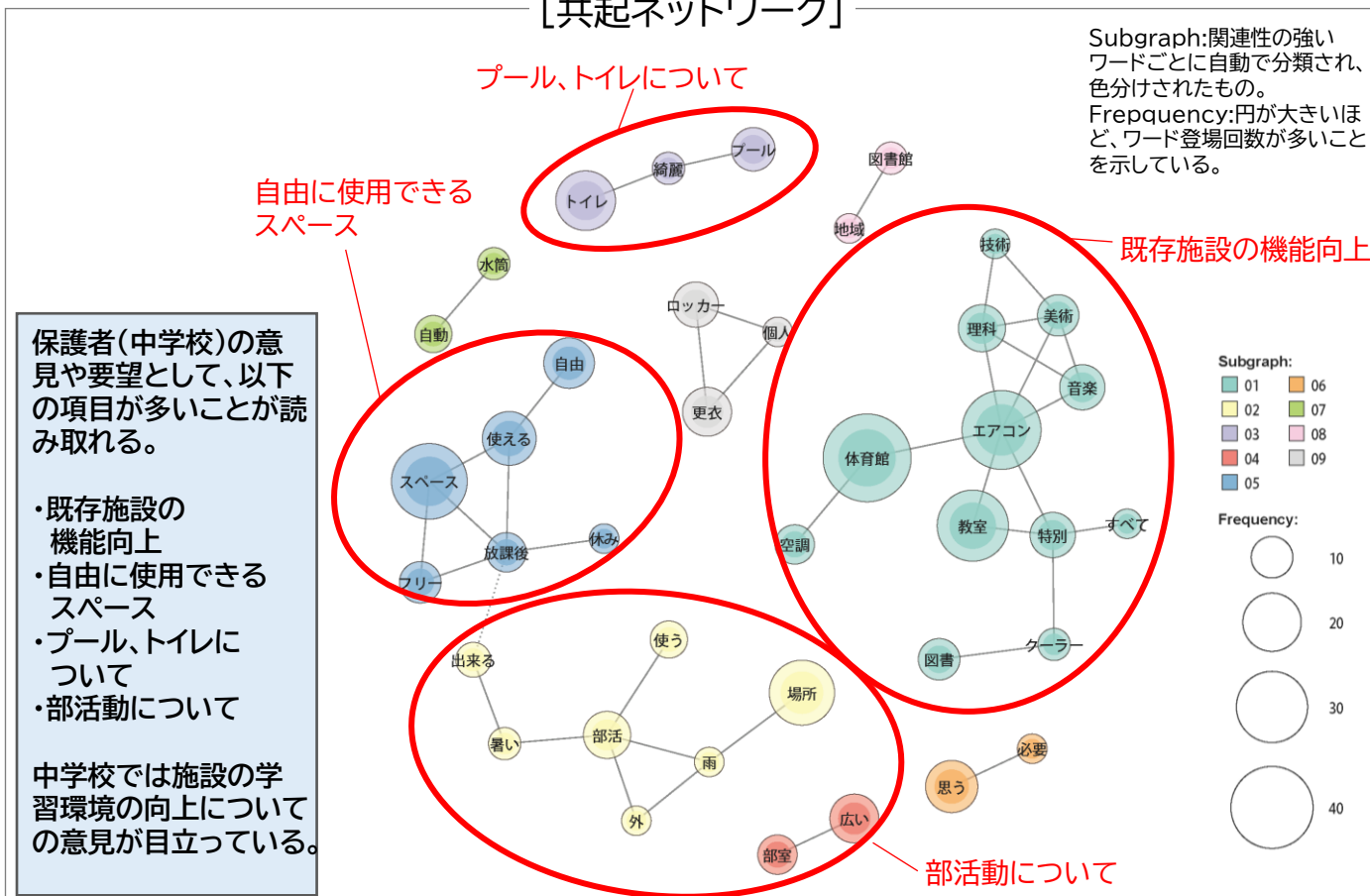
- 全体として、校庭の満足度が高く、プールの満足度が低い。
- 個別に見ると、特にトイレの“衛生面”、体育館の“快適さ”の満足度が小学校・中学校ともに低い。

○学校施設にあつたらいいなと思う空間・施設・設備等・自由意見

<主な意見> [保護者(中学校:274件)]

- 体育館や特別教室にもクーラーが欲しい。
- 夏の体育館の風通しが悪く本当に暑いそうなので、改善出来る設備があると良いです。
- 理科室と美術室にエアコンが無いので設置してもらいたい。
- 特別教室にエアコンを早く設置して欲しい。夏場の部活が暑くて大変。
- 地域の方も(幼児も)利用できる図書館、バリアフリーのトイレ、体育館の空調設備の充実。(避難場所となるため)
- 放課後や休みの日などに使えるフリースペース。友達と勉強できるように。
- 自習ができるスペースや自由に使える待機場所などあったら便利だと思います。
- 放課後に自由に勉強が出来るスペース。
- 全学年のトイレが綺麗なわけではなく、綺麗なトイレと清潔感がないトイレとの差が激しいらしいので、そちらも整えて欲しい。
- トイレやプールを綺麗にして欲しい。
- 雨の日に部活動ができるような場所。自由に勉強ができる場所。
- 体育館を使う部活が多く、なかなか体育館を使った練習ができないので専用の施設(武道場など)があったら良いと思います。
- 更衣室や部室、ロッカーの充実化。

[共起ネットワーク]



○新しい学校づくりに対する意見や要望(782件)

<主な意見>[教職員]

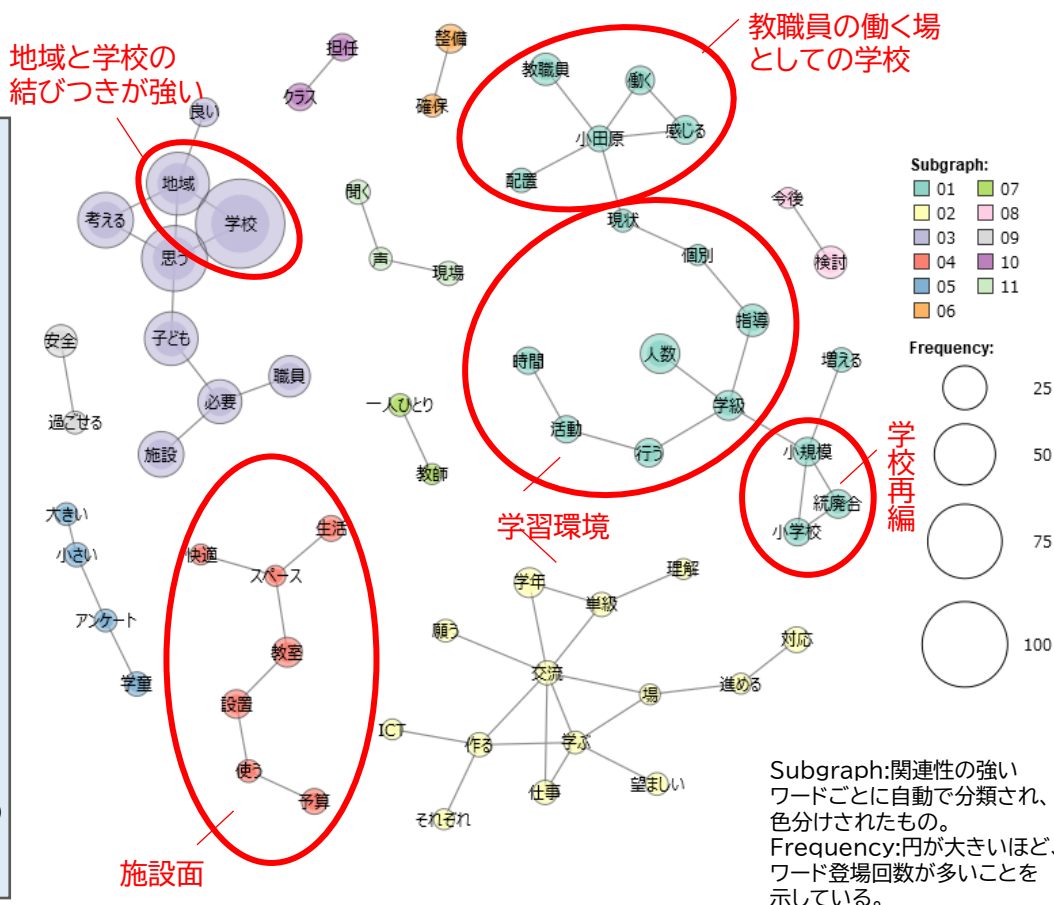
- 多様な児童と保護者への対応として、一人ひとりを大切にした指導が必要です。そのための職員の人数、学級人数、環境整備を進めて欲しいです。
- 施設の整備と共に職員の配置についても大規模校、小規模校関わらず必要であると考えます。
- 児童数の減少により小規模の学校が増えると思うが、児童からすると人間関係が固定化し、学習への意欲その他に弊害が出ると思われる。学年に複数学級のある学校の設置と、通学バスなど安全な登下校への施策が必要だと思ひます。
- 子供が学校へ行きたい、保護者が子供を通わせたい、教職員が働きたい、地域が応援したいと思ひえる特色のある魅力的な学校づくりにして欲しい。
- 老朽化が進んでいるため、快適な環境を整えていただきたい。特別教室にもエアコンの設置をしてもらいたい。
- トイレや机、椅子といった子供たちが毎日使っている物などに予算を計上し、各学校へ充てていただきたい。そういう意味でエアコン設置は大変助かっている。早く特別教室へのエアコン設置を願うところです。
- 空き教室を整備して多目的に使用できる空間に出来たらと思ひます。
- 少子化が進んでいるので小学校の統廃合も必要かと思ひます。しかし避難場所になることを考えると地域に小学校は必要です。高齢の方も安心して避難できる場所であって欲しいです。
- 学校は地域の中にあつて地域と共に歩いていくことが本来の姿である。地域住民が様々な面で大いに参加する中で子どもたちの成長があると思ひます。だから、学校は施設のみならず運営面においてもより地域一体型にしていくことが望ましいと思ひます。

[共起ネットワーク] 教職員(小学校)

教職員(小学校)の意見や要望として、以下の項目が多いことが読み取れる。

- ・学習環境
- ・施設面(スペース・設備・快適性・生活の場)
- ・地域と学校
- ・教職員の働く場としての学校
- ・学校再編

教職員では、保護者に比べて“地域と学校の結びつき”を強く考えていることが読み取れる。また、保護者にはなかった視点として「学校再編」についても意見も出ている。



○新しい学校づくりに対する意見や要望(782件)

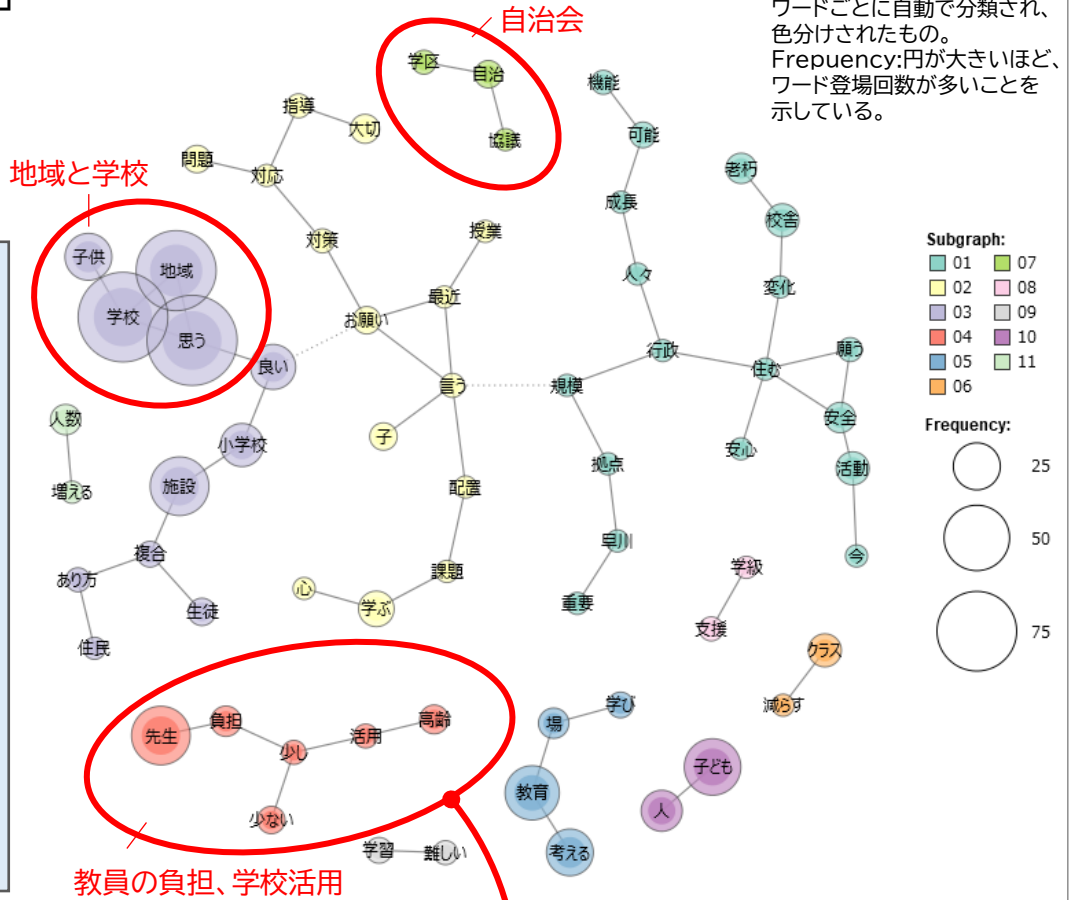
<主な意見>[地域]

- 学校が児童生徒の教育生活環境を優先し改革に踏み出すことで、地域住民の意識の変化、地域＝自治体ではなく、人と人とのつながり、輪、子供たちを育む思いを共有する人々の集まりに変わって行くことを期待します。
- ただ新しい校舎に建て替えるのではなく、地域の特色を盛り込んだ環境と先生達の職場環境まで配慮して欲しいです。
- 地域にとっては、コミュニティの中心は学校だと思います。これからも学校を中心に地域コミュニティが発展することを望みます。
- 学区と自治会(連合会)が同一でないため、地域で行う健民祭等、子供の参加が多い地域と少い地域になってしまう。
- インクルーシブな学校を目指して取り組まれていると思うが、障害のある子供や課題を抱えて居る子供、どんな子供も1つの教室で、共に協力しあって共に学べる環境になるのが好ましいと思います。それには環境整備やそれぞれの子供に寄り添った人員(先生)配置等、大変なことは沢山あるかと思いますが、将来的にも子供の頃からそういった中で育つことは大切だと思います。
- 40人以上で2クラスでは先生の負担が大きい、今後少子化が進んで行くと思われる為、1クラス25名以下にすれば先生の負担が軽減が出来ると思う。
- 先生方の負担が大変多いと思っております。夜職員室の明かりがついていると、本当に頭が下がります。先生方の負担が少しでも少なくなるよう望みます。

○新しい学校づくりに対する意見や要望(782件)

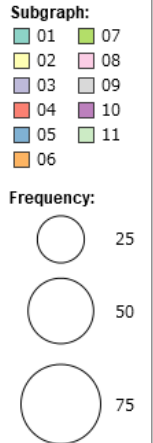
[共起ネットワーク] 地域(小学校)

Subgraph:関連性の強いワードごとに自動で分類され、色分けされたもの。
Frequency:円が大きいほど、ワード登場回数が多いことを示している。

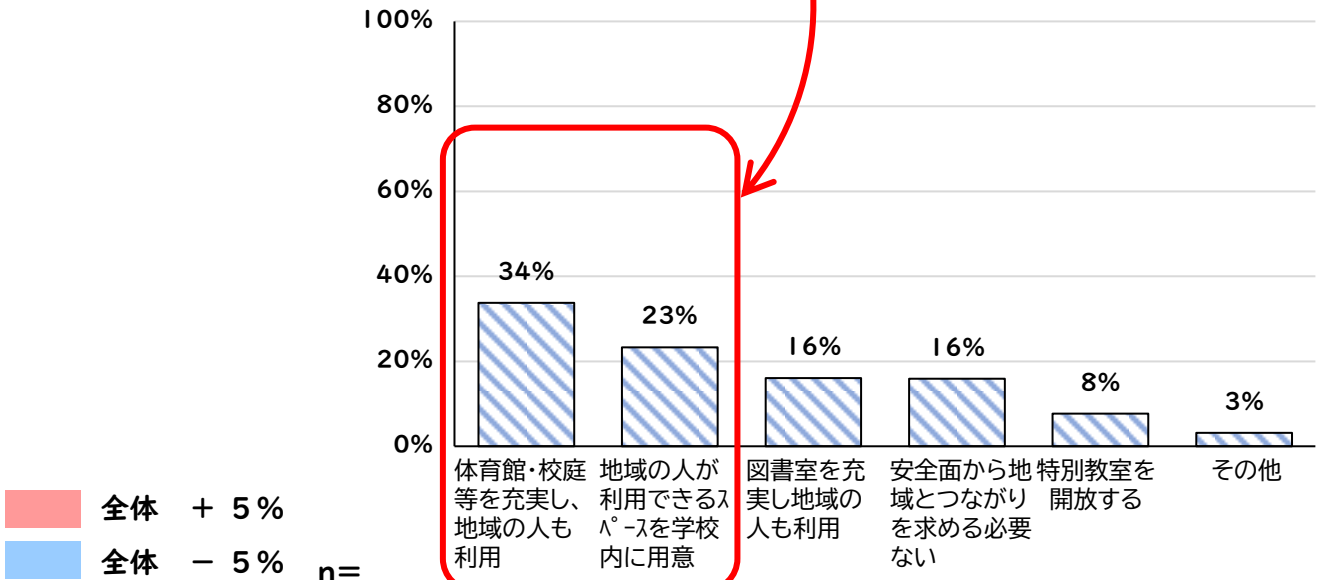


地域(小学校)の意見や要望では、「地域と学校」のつながりを強く考えていることが読み取れる。

その他「自治会」「教員の負担」「高齢化・学校活用」などの項目が多い。これは、空き教室等の有効活用・複合化に期待する考えと、教員の負担増にならない配慮が必要なことをあわせて考えていることが推察できる。



○学校施設と地域とのつながりについて ※3つまで選択



全体		1,587	33.8%	23.3%	16.1%	15.9%	7.7%	3.2%
教職員	小学校	697	35.3%	20.9%	15.1%	18.1%	6.6%	4.0%
	中学校	407	32.9%	18.9%	17.4%	22.1%	5.4%	3.2%
地域	小学校	360	32.2%	29.7%	15.8%	8.1%	11.7%	2.5%
	中学校	123	32.5%	32.5%	17.9%	6.5%	9.8%	0.8%

特に“活動場所(居場所)”の必要性を感じている

小田原市新しい学校づくり検討委員会

中間報告

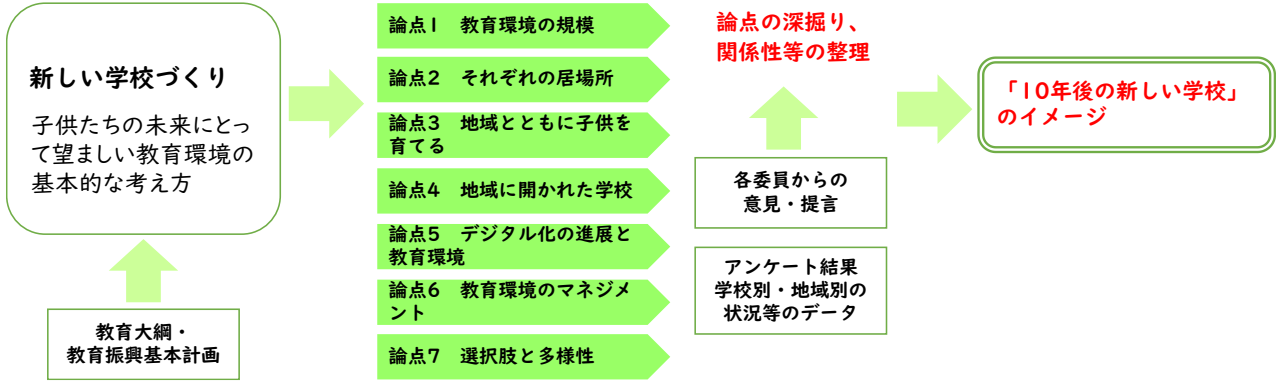
令和5年(2023年)5月
小田原市新しい学校づくり検討委員会

I 「新しい学校づくり推進基本方針」とは

● 基本方針策定の目的とプロセス

- ✓ 学校を取り巻く現状と課題及び本市の学校教育の目指す姿を踏まえ、子供たちの未来にとって望ましい教育環境の基本的な考え方を示す。
- ✓ 「望ましい教育環境」として、「10年後の新しい学校」を描くための7つの論点を設定して検討。
- ✓ そこから見えてきた「10年後の新しい学校」のイメージを、イラスト等により「見える化」する。

【検討プロセス】



【検討経過】

- ✓ **新しい学校づくり検討委員会**: 教育、学校施設、都市計画等に精通した学識経験者、小中学校の校長、PTA・自治会の代表者、公募市民の計10名で構成。
令和4年(2022年)4月から検討を開始、令和5年3月までに6回開催し、これまでの検討経過をまとめた中間報告を公表。
令和5年度11月を目途に基本方針策定後の展開も加えた基本方針の策定・公表を目指す。

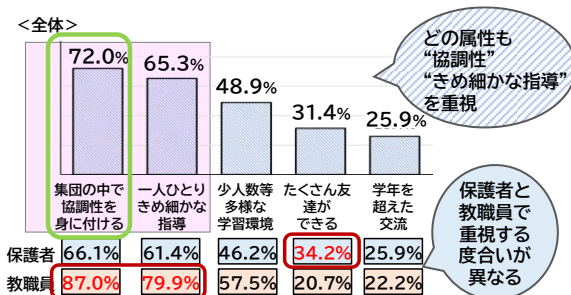
● 保護者・教職員・地域関係者へのアンケート

- ✓ 令和4年(2022年)7月～9月に、オンラインと紙を併用して実施。
- ✓ 回収率: 保護者52.8% 教職員71.2% 地域関係者70.4%

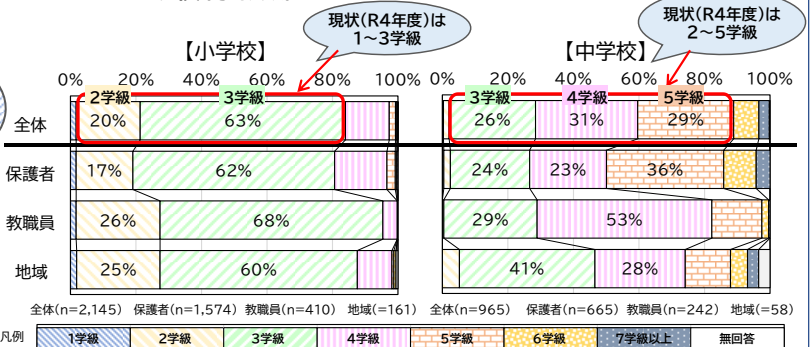
【アンケート結果】

- ✓ これからの学校教育で重視してほしいことについては、どの属性でも「集団の中で協調性を身に付ける」「一人ひとりきめ細かな指導」を重視している割合が高い。
- ✓ 望ましい規模(学級数)では、小学校で2学級から3学級、中学校で3学級から5学級が望ましい規模と考えている方が多い。

○ これからの学校教育で重視してほしいこと



○ 望ましい規模(学級数)

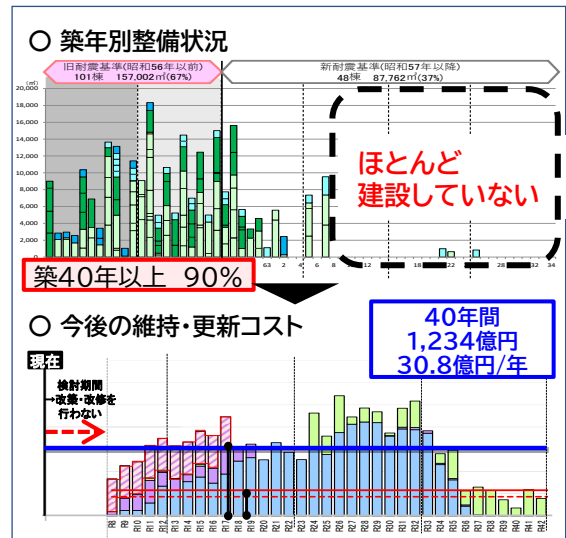


II 学校を取り巻く現状と課題(背景)

- 「新しい学校」を考えるにあたり、「学校施設の現状」と「児童生徒数の動向」等を整理する必要がある。また、学校整備(ハード)、学校運営(ソフト)に要する経費を把握する必要がある。

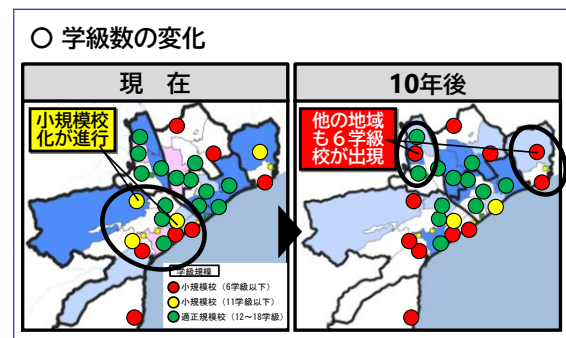
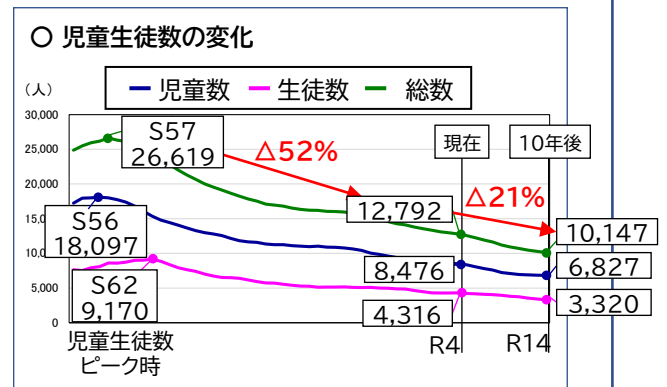
● 学校施設の現状

- ✓ 小学校25校、中学校11校で延床面積約25万㎡、そのうち築40年以上が90%を占めている。
- ✓ 築60年超の校舎保有校がすでに3校あり、10年後には18校に増加する。直近約30年は新築・改築はほとんどない。
- ✓ 今後、全ての施設を維持・更新するには、40年で1,234億円・年平均30.8億円必要。改築時期が、直近20年に集中するため、特に直近10年は42.2億円/年必要になる。



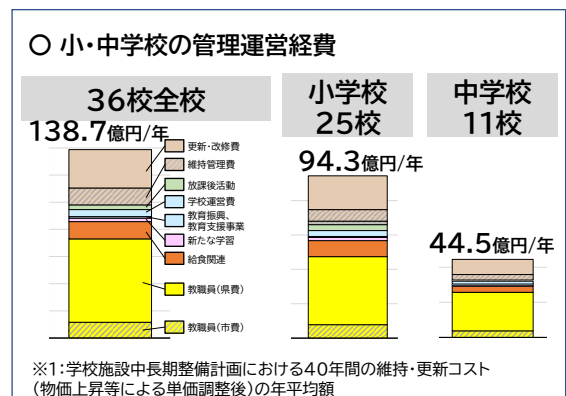
● 児童生徒数の動向等

- ✓ 児童生徒数はピーク時から現在までですでに52%減少しており、今後10年ではさらに約20%の減少が予測されている。
- ✓ 通常学級数では、すでに6学級(全学年単級)の小学校が7校あり、今後も小規模校化の進展が予測されている。
- ✓ すでに小規模校が多い地域もあれば、まだ標準規模校が多い地域もあるなど、地域によって、児童生徒数・学級数の状況は異なっている。
- ✓ 支援を要する児童・生徒は、年々増加している。



● 学校運営に要する経費

- ✓ 学校運営には、施設の維持管理費や光熱水費に加え、教育活動やICT教育、給食や学童(放課後児童クラブ)など、様々な経費がかかっている。
- ✓ 教職員の人件費は、県が負担する分(県費)のほか、用務員や各種支援員等、市が負担する分(市費)も多い。
- ✓ 改築(建替え)に要する経費は1校当たり32.4~36.8億円、長寿命化改修に要する経費は1校当たり15.2~17.4億円。



Ⅲ 小田原市が目指す教育の姿を体現する「新しい学校」

● 小田原市が目指す教育の姿

- ✓ 本市では、教育の理念や目標を掲げた「第2期小田原市教育大綱」と、それらを実行するための具体的な手法や方法を示した「第4期小田原市教育振興基本計画」を一体的に策定し、令和5年度からスタートさせている。
- ✓ これまでは、学校教育を主な対象としていたが、新たな大綱・計画では、これからの人生100年時代をより豊かに生きていけるように、それぞれの存在を認め合い、それぞれの可能性を最大限に発揮しながら、幸せな社会を共に創っていく「社会力」を、生涯にわたる学びをとおして育てていくことを掲げている。
- ✓ 森里川海がひとつならになった豊かな自然環境、長い歴史の中で先人から継承されてきた文化・産業に加え、多様な関わり合いの中で培われた「ひとの力」など、小田原ならではの多様な地域資源を最大限に生かし、子供も大人も「社会力」を育てていくことが、小田原市が目指す教育の姿である。



● 新しい学校とは

- ✓ 「新しい学校」とは、こうした小田原市の教育が目指す姿を体現する場として、10年後を目途に具現化することを目指すもの。
- ✓ 「新しい学校」は、これまで「子供たちの学校」としてきた場を、生涯にわたる「みんなの学びの場」に再構築し、共に学び、育つことができ、自分たちの幸せな社会を共に創っていく「社会力」を育む空間とする。そして、地域資源を生かした学びのフィールドは、学校だけにとどまることなく、日常的に地域全体に拡張していく。
- ✓ また、急激に変化する社会の中で、全ての子供たちの可能性を引き出す学びを支え、育む場として、柔軟で創造的な学習・生活空間も提供する。
- ✓ 「新しい学校」は、地域における学びの拠点として、持続可能な運営や仕組みも併せ持つ施設になる。そのため、実現に向けたプロセスでは、各地域において、地域ごとの「新しい学校」を考える機会が丁寧に設けられ、多様な主体による議論が展開されることが重要となる。



IV 「新しい学校」を描くための論点

7つの論点	検討委員会での主な意見	
論点1 教育環境の規模	<ul style="list-style-type: none"> ● 小規模校の良い面: 子供同士の人間関係がより深まりやすい、個に応じた学びに深く迫りやすい、一人ひとりに先生の目が届く、個人の存在感が高まる、など。 ● 小規模校の悪い面: 人間関係やお互いの評価が固定化しやすい、ダイナミックな学習活動に制約が生じやすい、教職員の配置人数が少なく、一人あたりの校務負担が非常に多くなる、など。 ● 学校の小規模化により教職員人数が少なくなると、部活動数の維持は厳しくなる。 ● 縦の関係(学年を越えて)や校外のカリキュラム、民間との連携など、たて、よこ、ななめのコミュニケーションも必要ではないか。 ● 望ましい学校規模(1学年あたりの学級数/1学級あたりの人数)は、 小学校: 2~3学級/25~30人程度 中学校: 3~4学級/30~35人程度 	
論点2 それぞれの居場所	子供	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様性に配慮し、多様な性質の居場所が必要であり、意見聴取等を行い、子供たち自身が必要と思う空間を提供するべき。 ● 場所に応じた人的サポートを提供できるような体制作りも必要。
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員室と廊下の間に相談ラウンジを作るなど、先生と子供の両方が使える中間領域のような場所があるといい。 ● 個人的な居場所。(1人でいられる場所)/社会的な居場所(先生同士で交流できるワークスペース)
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動で利用する人が、子供たちのサポートをしてくれるといい。 ● 管理、セキュリティを確保しつつ、地域の方も利用できるようにする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校で過ごす人たちの活動は多様で、目的に合った居場所を見つけられることが好ましい。 ● セキュリティの確保、管理を誰が担うか、ということが課題。
論点3 地域とともに子供を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源を生かした教育活動: 田植え・稲作体験、野菜栽培、地域事業所での校外学習、漁港での水産業の学習など。 ● 地域住民によるボランティア活動: 読み聞かせ、清掃や花壇の整備、登下校時等の見守りなど。 ● 少子化と高齢化が進んでいるなかで地域が学校を支えきれない状況が出てくる可能性あり。 ● 学校は「つながりを作る場所」であり、地域との役割分担や専門スタッフの導入等により、教職員の負担を軽減しながら、つながりの場を充実させることが大切。 	
論点4 地域に開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動は、学校とのつながりが強いものが多く、また学校活動は、地域の方の協力がなくては成立しない。 ● 地域の協力を得て、学校の課題、地域の課題に協力して取り組んでいる。 ● 地域ごとの公共施設の配置状況や老朽化状況を検証したうえで、それらが更新時期を迎えるタイミングと合わせて、地域全体で公共施設の再編を考えるべき。 	
論点5 デジタル化の進展と教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ● ICTを活用した学習の拡大により、教員に求められる資質が変わってきている。 ● 進化の速さに対応するためには、シェアを前提とした設備設計や、ある程度のフレキシビリティも重要。 ● リアルとオンラインを適切に組み合わせ、一人ひとりの学びを保障し、育ちを支える。そのためのICTであり、環境整備である。 	
論点6 教育環境のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 1つの学校だけでなく、市全体の学校をよくするためにどうするかを考える必要がある。全ての学校をフルスペックで残すのは限界があるため、機能を分散させたり、複数校で物的・人的資源を共有し魅力ある教育活動を展開することも必要。 ● 複合化、統廃合などは、他の公共施設との関係を考える必要がある。 ● 10年後に必要な教育事業を継続していくための予算調達を計画するのが重要。新しい学校づくりに資する基金の造成も必要ではないか。 	
論点7 選択肢と多様性	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然が豊か・運動が強い・支援級の子供が通いやすいなど、学校の特色に応じた選択の仕方もあるのではないか。 ● 学校選択制を導入した場合、子供にとって本当に良い学校を選ぶというよりも、保護者間の評判などで特定の学校への集中・減少が起こることもあり、慎重に議論する必要がある。 ● 学区の整理が前提で、学校をどの位置にどう配置するか計画と、学区の見直しをセットで行った上で、必要に応じて部分的に学校選択制を導入する、という手順が現実的ではないか。 	

V 「10年後の新しい学校」のイメージ

○「新しい学校」の望ましい規模は・・・

望ましい学校規模

小学校:1学年2～3学級

中学校:1学年3～4学級

●1学級あたりの人数について(R5)

【国の制度】

小学校:1～4年は35人、5～6年は40人(R7に全学年35人)

中学校:40人

※本市では、小学校1～5年が35人(R6に全学年35人)

→国の制度を考慮しなければ、先生の目が届きやすい、といった視点から、小学校は25～30人、中学校は30～35人程度が望ましい。

○新しい学校では・・・

- 子供たちが多くの友達や大人たちに囲まれて、学び合いやコミュニケーションを通して「関わる力」を養うことができる。
- 子供たち、教職員、地域の人など、学校で過ごす全ての人たちが、目的に応じた多様な居場所で、思い思いの時間を過ごすことができる。
- 地域資源や地域の特色を最大限活用した、多様な教育活動が行われており、地域の人も多く参加している。
- 地域の人が利用できるスペースや機能は、地域の実情やニーズに応じて決められており、充実した地域活動が行われている。
- 地域活動の場が学校につくられ、地域住民と子供たちや教職員とのコミュニケーションも活発になっており、「つながりを作る場所」として学校が機能している。
- ICTを効果的に活用し、学習者主体の多様な学びを提供すると同時に、リアルの関わりを育む学びがより充実している。
- 可変性の高い学習空間の中で、多様な学習スタイルが展開されている。
- 子供たちの特性や地域の特性に応じて、小規模特認校や義務教育学校など多様なスタイルの学校がある。
- インクルーシブ教育の理念に基づき、全ての学校で、個々の特性やニーズに合わせた多様な学習・生活環境が用意されている。
- 教職員が生き生きと働き、子供たちと向き合うことができる。



令和5年度 学校運営協議会委員一覧

学校名	No	氏名	所属	備考
三の丸小学校	1	渡邊光男	幸地区連合会長・幸25区自治会長	
	2	柏木隆良	P T A会長	新任
	3	鈴木あさみ	学識者	
	4	門松孝幸	元P T A会長・学識者	
	5	山田敏紀	元P T A会長・学識者	
	6	清家秀子	主任児童委員	新任
	7	和田隆宏	おやじの会常任幹事	
	8	村上文彦	スクールボランティアコーディネーター	
	9	市川嘉裕	城山中学校長	
	10	中畑幹雄	三の丸小学校校長	
	11	土屋智美	三の丸小学校教頭	
	12	加藤亜衣	三の丸小学校教務	
新玉小学校	1	池田信彦	新玉小学校育成協議会長	
	2	石井綾子	新玉小学校薬剤師	
	3	池田尚文	新玉地区連合自治会長	
	4	中谷彰吾	新玉小学校P T A会長	
	5	安東文康	新玉小学校P T A副会長	
	6	杉山郁恵	新玉小学校P T A副会長	新任
	7	高井周作	新玉小学校歴代P T A会長	新任
	8	北村直美	新玉連合子ども会会長	新任
	9	長谷部寛子	新玉地区主任児童委員	
	10	岩田真由美	新玉小学校 校長	
	11	山田明子	新玉小学校 教頭	
	12	井上文子	新玉小学校 教務	
足柄小学校	1	鈴木美喜夫	二川地区連合自治会長	
	2	常盤立夫	井細田一区自治会長	
	3	平松孝也	井細田43区自治会長	新任
	4	加藤英武	下宿自治会長	新任
	5	土屋桂一郎	二川地区民生児童委員協議会長	
	6	宇野英子	久野地区民生委員	
	7	山本俊夫	足柄学区育成連絡会長	
	8	中戸川道雄	P T A会長	新任
	9	村田久美子	足柄小学校 校長	
	10	笹森祐之	足柄小学校 教頭	
	11	柳原孝昌	足柄小学校 教務主任	

学校名	No	氏名	所属	備考
芦子小学校	1	穂田芳雄	芦子小学校同窓会長	
	2	佐久間悦男	芦子地区連合自治会長・下谷津自治会長	新任
	3	萩野太郎	元寺町自治会長	
	4	岡田健	芦子地区民児協会長	
	5	山口真一	芦子地区民生委員児童委員	
	6	若杉伸之	歴代PTA会長・青少年指導員	
	7	大井諦三	子ども見守り隊会長	
	8	安藤泰俊	芦子小学校前PTA会長	
	9	鈴木聖	芦子小学校PTA会長	
	10	山口陽子	芦子小学校PTA副会長	新任
	11	佐藤直美	芦子地区連合子ども会会長	新任
	12	杉山尚美	芦子小学校 校長	
	13	下川哲也	芦子小学校 教頭	
	14	矢島淳	芦子小学校 教務	
大窪小学校	1	石幡保雄	大窪地区連合自治会連合会長	
	2	高木将年	大窪地区社会福祉協議会長	新任
	3	小林美由紀	大窪地区民生児童委員協議会長	
	4	伊豆浦俊美	大窪地区青少年健全育成連絡協議会副会長	
	5	成川洋子	大窪地区主任児童員	
	6	山田浩子	元小田原市教育委員会教育委員	
	7	大木富男	元大窪小学校PTA会長	
	8	田口大介	大窪小学校PTA会長	
	9	瀬戸みのり	大窪小学校スクールボランティアコーディネーター	
	10	楠喜久子	大窪小学校校長	
	11	村山一利	大窪小学校教頭	
	12	小山光則	大窪小学校教務	
早川小学校	1	脇昌丈	早川地区自治会連合会会長	
	2	本田耕土	早川地区民生委員児童委員協議会会長	
	3	長谷川美紀	早川地区主任児童委員	新任
	4	土谷隆之	早川青少年健全育成協議会会長	
	5	鈴木和宏	早川学区連合子ども会会長	
	6	青木理加	小児科医	
	7	太子みさえ	防犯コーディネーター	新任
	8	青木孝直	PTA会長	
	9	遠藤めぐみ	スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	篠島民一	はやかわ地区まちづくり委員会事務局	
	11	中島慶太	早川小学校校長	
	12	生垣麻美	早川小学校教頭	
	13	山田恵里	早川小学校教務主任	

学校名	No	氏名	所属	備考
山王小学校	1	梶塚孝雄	自治会連合会長（山王西自治会）	
	2	譲原平海	山王70区自治会長	
	3	釧持正	網一色自治会長	
	4	金子正史	山王東自治会長	新任
	5	岩田隆一	社会福祉協議会長	
	6	柴田千賀子	主任児童委員	
	7	古江淳子	主任児童委員	
	8	手塚満	青少年健全育成協議会長	
	9	島田武典	山王小学校PTA会長	
	10	釧持ゆか	山王小学校校長	
	11	松澤俊介	山王小学校教頭	
	12	藤本雅樹	山王小学校教諭	
久野小学校	1	湯川増夫	自治会連合会長	
	2	杉崎光男	民生委員児童委員協議会会長	
	3	澤野浩子	主任児童委員	
	4	濱野昌平	久野小学校同窓会長	
	5	佐藤えみ	久野保育園保育士	新任
	6	初瀬川芳典	PTA会長	新任
	7	小島順子	スクールボランティアコーディネーター	
	8	廣川登	農園ボランティア	
	9	石綿敏久	農園ボランティア	
	10	大槻章吾	小田原警察署地域課久野駐在所	新任
	11	平居智基	久野小学校 校長	
	12	大澤ひかる	久野小学校 教頭	
	13	寺内浩司	久野小学校 統括教諭（教務担当）	
富水小学校	1	木村秀昭	富水地区自治会連合会長	
	2	府川悟志	富水地区青少年育成協議会	
	3	山崎さおり	富水地区主任児童員	新任
	4	加藤紀元	富水小学校同窓会長	
	5	阿部祥典	富水小学校PTA会長	
	6	内田陽子	スクールボランティアコーディネーター	
	7	立山和也	富水地区まちづくり委員会委員	
	8	清水陽子	元PTA本部役員	
	9	鈴木一彦	富水小学校長	
	10	山本礼子	富水小学校教頭	
	11	時村健太	富水小学校総括教諭	

学校名	No	氏名	所属	備考
町田小学校	1	根上寿雄	自治会連合会長	
	2	出野正一	町田学区青少年育成協議会長	
	3	瀬戸昌子	民生児童協議会長	
	4	田嶋浩充	同窓会会長	
	5	松本浩	主任児童委員	
	6	安東香央里	主任児童委員	新任
	7	落合千博	民生委員児童委員	
	8	高橋末哲	PTA役員経験者	
	9	廣石なつ希	PTA役員代表	新任
	10	藤本明美	町田小学校 校長	
	11	山口博	町田小学校 教頭	
	12	秦順子	町田小学校 教務	
下府中小学校	1	横田八郎	自治会代表（中里1区-1）	
	2	坂 明子	地区有識者	新任
	3	尾嶋隆広	下府中地区民生委員児童委員協議会副会長	新任
	4	杉山美起也	美濃里会会長元PTA会長	新任
	5	大塚聡子	地域コーディネーター	
	6	加藤智晃	元PTA会長	
	7	森重宏明	下府中コミュニティshin2会長	
	8	高田隆	PTA会長	
	9	夏苺正子	放課後子ども教室コーディネーター	
	10	佐々木みな子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	11	力石清	下府中小学校 校長	
	12	浅川能之	下府中小学校 教頭	
	13	川口敦	下府中小学校 教務	
桜井小学校	1	下田成一	同窓会会長	
	2	曾我常夫	元自治会長	
	3	山本寛	民生委員協議会会長	新任
	4	宮内宏人	連合自治会長	
	5	深野ゆかり	元学校評議員	
	6	石黒智彦	青少年育成会会長	
	7	中嶋輝美	桜井ひろば土曜クラブ会長	
	8	森直樹	PTA会長	新任
	9	久保寺洋子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	林健一郎	桜井小学校 校長	
	11	瀬戸哲子	桜井小学校 教頭	
	12	高橋正憲	桜井小学校 学校職員	

学校名	No	氏名	所属	備考
千代小学校	1	沖山明	上府中連合自治会長	
	2	田邊淳子	上府中民生児童委員協議会長	
	3	金子智美	上府中地区主任児童委員	新任
	4	松本伸一	PTA会長	新任
	5	門松晴美	スクールボランティアコーディネーター	
	6	佐藤千恵子	学識経験者	
	7	菴原晃	千代小学校 校長	
	8	有光明子	千代小学校 教頭	
	9	長谷川正	千代小学校 教務	
下曾我小学校	1	神保直也	自治会連合会長	新任
	2	星野武夫	社会福祉協議会長	新任
	3	穂坂雄司	民生委員児童委員協議会長	新任
	4	曾我祐行	老人クラブ連合会長	新任
	5	内山健治	下曾我体育協会会長	
	6	椎野良	下曾我応援団ぶらむ代表	新任
	7	神尾宏明	下曾我学区連合子ども会代表	新任
	8	菅原史佳	元PTA会長	
	9	二見眞一郎	PTA会長	
	10	木村鮎子	ボランティアコーディネーター	
	11	木村弘子	下曾我小学校校長	
	12	片渕徳子	下曾我小学校教頭	
	13	福島弥生	下曾我小学校総括教諭	
国府津地区	1	川口博三	国府津地区自治会連合会長	
	2	金井宏樹	国府津地区青少年健全育成協議会長	新任
	3	小澤良一	民生委員・児童委員協議会長	新任
	4	古谷浩	国府津地区体育振興会長	
	5	小川新治	国府津中学校PTA会長	
	6	海野晋佑	国府津小学校PTA会長	
	7	石塚達義	石塚保育園園長	
	8	菅原理恵	国府津小学校スクボラコーディネーター	
	9	金井美鈴	国府津中学校スクボラコーディネーター	
	10	北村しのぶ	国府津中学校 校長	
	11	池谷二郎	国府津中学校 教頭	
	12	浜口勝己	国府津小学校 校長	
	13	都築典子	国府津小学校 教頭	

学校名	No	氏名	所属	備考
酒匂小学校	1	讓原春夫	酒匂・小八幡連合自治会長	
	2	須藤光雄	酒匂小学校同窓会長	
	3	栗原稔育	酒匂地区社会福祉協議会会長	
	4	及川章子	酒匂地区主任児童委員	新任
	5	久保寺重雄	学識経験者	新任
	6	中村大司	PTA会長	
	7	板津京子	スクールボランティアコーディネーター	
	8	下田恵子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	9	古木美貴	酒匂幼稚園園長	新任
	10	小瀬村晴美	さくら保育園園長	
	11	長谷川公子	桃重保育園園長	
	12	高田秀樹	酒匂小学校長	
片浦小学校	1	青木功	連合自治会長	新任
	2	鈴木由行	片浦小学校同窓会長	
	3	押田道子	片浦地区民生児童委員協議会会長	新任
	4	稲葉祐二	片浦連合自治会学校担当	新任
	5	松本利洋	片浦地区青少年健全育成協議会会長	
	6	朝倉正芳	片浦小学校PTA会長	新任
	7	廣瀬美奈子	片浦小学校PTA副会長	新任
	8	箴島美咲	小規模特認校代表	
	9	長島紀子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	渡邊千幸	早川保育園長	
	11	市川嘉裕	城山中学校 校長	
	12	石井美佐子	片浦小学校 校長	
曾我小学校	1	関野晃弘	元小学校長・民生委員児童委員協議会副会長	
	2	新鹿勲	曾我地区自治会連合会長	
	3	稲毛節子	青少年健全育成協議会会長	
	4	柏木祐子	曾我小学校元PTA会長	新任
	5	杉田和美	曾我地区主任児童委員代表	新任
	6	宮原元紀	曾我小学校PTA会長	新任
	7	中尾利恵子	曾我小学校PTA副会長	新任
	8	石井典克	保護司	
	9	柏木昇	曾我小おやじの会代表	新任
	10	市川佳澄	スクールボランティアコーディネーター	新任
	11	椿清一	曾我小学校 校長	
	12	山田亜紀子	曾我小学校 教頭	
	13	松尾裕子	曾我小学校 教務	

学校名	No	氏名	所属	備考
東富水小学校	1	岩崎良春	自治会連合会長	新任
	2	磯崎伸子	民生委員児童委員協議会長	
	3	松本章	主任児童委員	新任
	4	和田正樹	青少年育成会長	
	5	一寸木庸子	スクールボランティアコーディネーター	
	6	中村義博	計算・クラブボランティア	
	7	久保寺佳香	東富水幼稚園長	新任
	8	高原純一	P T A会長	
	9	阿部理絵	P T A副会長	
	10	金田春菜	P T A副会長	新任
	11	米山好絵	東富水小学校校長	
	12	濱島功	東富水小学校教頭	
	13	高橋美徳	東富水小学校総括教諭	
前羽小学校	1	志澤政勝	前羽自治会連合会長	新任
	2	椎野千鶴子	前羽民生委員児童委員協議会長	新任
	3	石井千代子	前羽民生委員主任児童委員	新任
	4	堀松昌紀	前羽青少年健全育成協議会副会長・青少年育成地区推進委員	
	5	富瀬一枝	スクールボランティア	
	6	北村千波	スクールボランティアコーディネーター	
	7	大曾根有三	前羽小学校P T A会長	
	8	福島歩美	前羽小学校P T A副会長	
	9	小野澤真由美	前羽小学校P T A副会長	
	10	加藤まゆみ	前羽小学校長	
	11	横山聡	前羽小学校教頭	
	12	曾我重康	前羽小学校教務	
下中小学校	1	大木鈴子	P T A会長	新任
	2	岸敏江	主任児童委員	新任
	3	石塚ミドリ	民生委員児童委員協議会長	
	4	内田佳織	主任児童委員	
	5	野口良博	社会福祉協議会長	新任
	6	清水玲子	青少年健全育成協議会長	
	7	諏訪部一美	自治会連合会会長	
	8	富松国雄	保護司	
	9	脇純一	まちづくり委員会文化・教育分科会科長	
	10	佐藤瑠里子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	11	井島一吉	下中幼稚園 園長	
	12	大須賀剛	下中小学校 校長	
	13	小畑由美子	下中小学校 教頭	
	14	廣澤裕次	下中小学校 教務	

学校名	No	氏名	所属	備考
矢作小学校	1	官野稔	下府中地区連合自治会副会長	新任
	2	内田静一	前下府中地区連合自治会副会長	
	3	川本裕之	下府中体育振興会長	
	4	永森俊行	下府中青少年育成推進委員会会長	
	5	越川知香子	矢作幼稚園長	新任
	6	多田朝子	下府中地区主任児童委員	新任
	7	島田美千代	放課後子ども教室スタッフ	
	8	古藤貴久	矢作小学校PTA会長	
	9	井上智子	矢作小学校 校長	
	10	宇根頼子	矢作小学校 教頭	
	11	垂水宏昌	矢作小学校 教務	
報徳小学校	1	内山善弘	新屋自治会長	
	2	内海勇	小台自治会長	
	3	渡辺好己	柳新田自治会長	新任
	4	鈴木俊弘	西栢山自治会長	
	5	柳井由美子	元小田原市民生委員児童委員	
	6	井上淳一	報徳会会長・子どもを守る会代表	
	7	小澤安久	有識者	
	8	根津憲一	有識者	
	9	中嶋真樹	報徳小学校PTA会長	
	10	奥津幸	報徳小学校スクールボランティアコーディネーター	新任
	11	瀬戸由里子	報徳小学校 校長	
	12	小林敦	報徳小学校 教頭	
	13	浅川麻子	報徳小学校 教務	
豊川小学校	1	加藤昌治	豊川地区自治会連合会長	新任
	2	山室秀子	豊川地区民生児童委員協議会長	
	3	金子真也	豊川駐在所	新任
	4	栢沼行雄	豊川地区社会福祉協議会長	
	5	有賀かおる	豊川地区主任児童委員	
	6	富田玉江	豊川地区主任児童委員	新任
	7	奥津隆宏	豊川小学校PTA会長	
	8	山田由香理	豊川小学校PTA副会長	新任
	9	小野美和	スクールボランティアコーディネーター	
	10	栗原光	豊川小学校 校長	
	11	藤森広一郎	豊川小学校 教頭	
	12	小田知也	豊川小学校 教務	

学校名	No	氏名	所属	備考
富士見小学校	1	関野次男	自治会長（富士見代表）	
	2	川村昇	自治会長（酒匂代表）	新任
	3	五十嵐尚美	民生児童委員（酒匂）	
	4	鈴木かおり	主任児童委員（酒匂）	
	5	松浦文雄	民生児童委員（南鴨宮）	新任
	6	山田治美	主任児童委員（南鴨宮）	新任
	7	加藤長治	P T A 会長	
	8	菊池正敏	ゆりかご園園長	
	9	三輪真実	スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	安多寿子	富士見小学校 校長	
	11	星野倫克	富士見小学校 教頭	
	12	卯月隆	富士見小学校 教務主任	
城山中学校	1	栗田康宏	連合自治会長（緑地区）	新任
	2	加藤芳永	連合自治会長（万年地区）	
	3	渡邊光男	連合自治会長（幸地区）	
	4	堀内貞治	連合自治会長（十字地区）	
	5	青木功	連合自治会長（片浦地区）	新任
	6	鈴木あさみ	学識経験者	
	7	鈴木悌介	学識経験者	
	8	中畑幹雄	三の丸小学校長	
	9	石井美佐子	片浦小学校長	
	10	高橋剛司	城山中学校 P T A 会長	新任
	11	清家秀子	PTA経験者	新任
	12	小澤澄生	PTA経験者	
	13	市川嘉裕	城山中学校長	
	14	松澤文恵	城山中学校教頭	
	15	椎橋泰之	城山中学校教務主任	

学校名	No	氏名	所属	備考
城南中学校	1	石幡保雄	大窪地区連合自治会長	
	2	脇昌丈	早川地区連合自治会長	
	3	相原淳男	城南学区育成会会長	
	4	小林美由紀	大窪地区民児協会会長	
	5	本田耕士	早川地区民児協会会長	
	6	植村保夫	前60地区自治会長	
	7	鈴木洋一郎	令和5年度PTA会長	
	8	山田洋介	学校医	
	9	川向由起子	大窪地区主任児童員	
	10	加藤雅子	早川地区主任児童員	
	11	加藤直樹	校長	
	12	長谷川弘子	教頭	
	13	山口勝也	教務主任	
酒匂中学校	1	小酒部晃久	元高等学校校長	
	2	讓原春夫	酒匂・小八幡自治会連合会長	
	3	関野次男	富士見自治会連合会長	
	4	鈴木省三	元PTA会長	
	5	島津三喜子	保護司	
	6	及川章子	主任児童委員	新任
	7	今屋健一	酒匂中学校区青少年健全育成協議会長	
	8	湯原直子	PTA会長（保護者代表）	
	9	稲毛真弓	酒匂中学校校長	
	10	藤原克彦	酒匂中学校教頭	
	11	杉崎洋一	酒匂中学校総括教諭、教務主任	
白山中学校	1	岡野心平	保護司	新任
	2	土屋佳一郎	二川地区民生児童委員協議会長	新任
	3	鈴木美喜夫	二川地区自治会長	新任
	4	佐藤加寿代	元PTA会長	新任
	5	池田優子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	6	山室光由	白山中PTA会長	新任
	7	村山真康	白山中PTA副会長	新任
	8	村上晃一	白山中学校校長	
	9	伊藤由紀	白山中学校教頭	
	10	加藤太一	白山中学校教務主任	
	11	神保るり	白山中地域連携部長	

学校名	No	氏名	所属	備考
鴨宮中学校	1	服部謙一	下府中地区自治会連合会長	新任
	2	大木隆	飯泉3区自治会長	新任
	3	神谷賢治	保護司会代表	新任
	4	多田朝子	下府中地区主任児童委員	新任
	5	有賀かおる	豊川地区主任児童委員	新任
	6	荒木慶市	地域連絡協議会長	新任
	7	秋山榮太郎	下府中地区社会福祉協議会長	新任
	8	平野尚樹	鴨宮中学校PTA会長	新任
	9	伊東享子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	古田明子	スクールボランティアコーディネーター	新任
	11	永山健治	鴨宮中学校校長	
	12	奥津美香	鴨宮中学校教頭	
城北中学校	1	宮内宏人	栢山地区連合自治会長	新任
	2	小木朝美	元小田原市立中学校校長	新任
	3	香川興勝	桜井地区連合自治会推薦	新任
	4	小関ひとみ	富水地区主任児童委員	新任
	5	田口和夫	桜井地区体育振興会長	新任
	6	青木明代	青少年育成会推進委員	新任
	7	竹内宏樹	元城北中学校PTA会長	新任
	8	田中昌寛	城北中学校PTA会長	新任
	9	辻美幸	城北中学校スクールボランティアコーディネーター	新任
	10	下田成一	桜井地区社会福祉協議会長	新任
	11	高松宗	城北中学校校長	
	12	渡邊仁	城北中学校教頭	
	13	眞鍋智洋	城北中学校総括教諭・教務主任	
	14	奥津剛	城北中学校総括教諭・3年主任	
	15	二唐由紀	城北中学校総括教諭	